

2019年度 シラバス

科目種	区分	科目名	ページ
実技系	デザインライン	タイポグラフィー 1	1
		タイポグラフィー 2	2
		グラフィックデザイン基礎 A	3
		グラフィックデザイン基礎 B	4
		グラフィックデザイン	5
		6次デザイン A・B・C・D	6
		レイアウトデザイン A・C	7
		レイアウトデザイン B・D	8
		プロジェクトデザイン研究 A・B	9
	映像ライン	ムービーメイキング	10
		写真表現	11
	イラストレーションライン	イラストレーション	12
	アニメキャラクター	アニメキャラクターアートA	13
		アニメキャラクターアートB	14
	ファインアート	ファインアートA	15
		ファインアートB	16
	共通	ビジュアル表現	17
		描写1-デッサン	18
		描写2-想定デッサン	19
		描写3-人体	20
		美術学習論実習A・B・C・D・E	21
		総合制作 1・2・3	22
		総合研究A・B	23
	総合	ライン別ゼミA・B・C	24
		ライン別ゼミD・E	25
		インターンシップVD	26
		キャリアアップ実習	27
		インターンシップPDE A・C	28
		インターンシップPDE B	29
		就職実践	30
	プロモーションワークA・B・C・D・E	31	
講義・演習系	専門	クリエイティブワーク総論A・B・C・D・E	32
		色彩	33
		DTP理論	34
		エディトリアルDTP	35
		WEB理論 A	36
		WEB理論 B	37
		コピーライティング A	38
		コピーライティング B	39
		ディスプレイデザイン A・B	40
		美術学習論	41
		映像制作入門	42
		映像理論A	43
		映像理論B	44
		映像表現	45
		キャラクター概論	46
		マンガ概論	47
		アート研究	48
		コンセプトチュアルアート	49
		ビジネスナレッジ B	50
		ーデザインコンプライアンス	50
	プロジェクトデザイン基礎1・2・3	51	
	デザインエンジニアリング A・B	52	
	一般	キャリアデザイン A	53
		キャリアデザイン B	54
		キャリアデザイン C	55
		キャリアデザイン D	56
		キャリア講座 A	57
		キャリア講座 B	58
		インターンシップ A	59
インターンシップ B		60	
マーケティング		61	
ビジネスナレッジ A		62	
ービジネスリテラシー	62		



授業科目名	タイポグラフィ1		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	全科共通	VD・VA 1 年次 PDE 1 年次	1(30)
必修・選択	必修(PDE選択)	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	水3・4	資格対応	レタリング検定3級			
担当教員	小林 勝彦					講師の実務 経験	<input type="radio"/> グラフィックデ ザイン・広告企 画制作	
授業概要	レタリングでデザインの造形法の基礎を学びます。日本語体のレタリングを主に明朝体で行います。また文字の骨組みである字体を速く描く練習も重ねていきます。後半では英字レタリングに取り組みます。							
授業方法	手本通りに鉛筆の手書きで「形成する実技を繰り返します。字体描きはサインペンで短時間の練習を重ねます。							
授業目標	思考・判断・表現	水平垂直、曲線の自然さが分かり、それがどう美しさにつながるのかを考える						◎
	技能	平面空間での形の観察力、それを道具により再現する形成力をつける						◎
	関心・意欲・態度	正しく美しい形づくりへの意欲と、完成に向けた粘り強い制作態度を高める						◎
	知識・理解	文字特有の造形法が広くデザイン造形に通じることを知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	制作の質	10	10	10	10	40		
	提出物の充足	—	—	20	10	30		
	受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30		
	合計(点)	10	10	45	35	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。既にレタリング検定を取得している場合は、観点に加えて評価を行う場合があります							
テキスト・教材	書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買でPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、水性中細サインペン							
その他参考書	手本を配布							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	1.オリエンテーション 2.エレメントから一個の漢字							
2回	1.基準字体 2.明朝漢字							
3回	1.基準字体 2.明朝漢字							
4回	1.基準字体 2.ゴシック漢字							
5回	1.英字ロゴタイプ 2.試験対策講座							
6回	試験対策講座							
7回	1.かな(ひらがな・かたかな)							
8回	1.かな漢字まじりロゴタイプ 2.まとめ							
備考								
時間外での学修	デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。							
受講生へのメッセージ	繰り返しますが、デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。授業後には必ず復習などをしてください。							

授業科目名	タイポグラフィー2		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD3・PDE	VD3 2 年次 PDE 2 年次	1(30)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	土1・2	資格対応	レタリング検定2級			
担当教員	小林 勝彦					講師の実務 経験	○ グラフィックデザイ ン・広告企画制作	
授業概要	タイポグラフィー1の履修をふまえて創作性や、デザインの用途において書体の使用法を制作実技を通して学習する。							
授業方法	創作ロゴタイプを構想し、鉛筆の手書きからパソコン操作による仕上げに移行し、フォントを使っての文字組や簡単なグラフィックレイアウトに入っていく。							
授業目標	思考・判断・表現	要件の理解からの発想、解決策としての造形を構想し、ビジュアル表現する						◎
	技能	必要な要件を満たす造形を構想し、形成力をつける						◎
	関心・意欲・態度	文字自身や文字を使った造形への意欲と、良いデザインに向けた粘り強い制作態度を高める						◎
	知識・理解	レタリングの造形法が、文字を用いたデザインに転じて発揮されることを理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		制作の質	10	10	10	10	40	
		提出物の充足	—	—	20	10	30	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30	
		合計(点)	10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。既にレタリング検定を取得している場合は、観点に加えて評価を行う場合がある							
テキスト・教材	書体サンプル集、定規一式、鉛筆(2H～2B)、PM用紙(購買でPMパッドからばら買い可)、A4PPC用紙、羽ぼうき、消しゴム、パソコン(Mac)、ソフト(Illustrator)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	1.オリエンテーション 2.創作書体の手本レタリング							
2回	1.創作ロゴタイプ							
3回	1.創作ロゴタイプ							
4回	1.創作ロゴタイプのデジタル制作							
5回	1.書体の知識 2.書体の使用							
6回	1.見出しと本文の文字組レイアウト							
7回	1.創作レイアウト							
8回	1.創作レイアウト 2.まとめ							
備考								
時間外での学修	実技課題が授業時間内に仕上がらない場合。							
受講生へのメッセージ	レタリングで習ったことを発展させることで、グラフィックデザインの基礎を確かなものにしましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD・VA共通	1年次	2(60)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2 金1・2	資格対応	—			
担当教員	山崎 澄子・小林 健太郎						講師の実務 経験	○ グラフィックデ ザイン
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Illustrator、Photoshop・InDesignの使い方を習得する</li> <li>・ Illustrator、Photoshop・InDesignを使って、自分が表現したいものを作る</li> <li>・ 印刷物を制作するためのノウハウを習得する</li> </ul>							
授業方法	Macの基本的な使い方、Illustrator、Photoshopの基本操作と、自分で使い方を調べる方法を講義。 課題を提示し、グループで作りかたを考えて仕上げる。必須課題のほか、ミニ課題を提出。							
授業目標	思考・判断・表現	操作方法を学ぶだけでなく、機能を自分で発見し、手順を考えて表現にいかせる						◎
	技能	Illustrator、Photoshop、InDesignの操作						○
	関心・意欲・態度	講義をしっかり聞く。グループワークに積極的に関わる。または自分で考えて進められる						◎
	知識・理解	グラフィックアプリケーションやデザインに関する用語の意味を理解する						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物 3点	30	24	—	6	60	
		その他提出物	—	—	10	—	10	
		出席率	—	—	30	—	30	
		合計(点)	30	24	40	6	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～50点、可:51点～40点、不可:41点～となります。 出席率60%以上、制作物3点の提出が単位認定の基準となります。							
テキスト・教材	『Illustrator 10年使える逆引き手帖【CC/CS6/CS5 対応】』 『Photoshop 10年使える逆引き手帖【CC完全対応】【Mac & Windows対応】』 『新詳説DTP基礎』 必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	Mac基礎							
3・4回	Illustrator							
5・6回	Illustrator							
7・8回	Photoshop							
9・10回	Photoshop							
11・12回	名刺作成							
13・14回	InDesign							
15・16回	InDesign・名刺講評会							
備考								
時間外での学修	課題制作が授業ないで終わらない場合は、授業時間外に進めること。							
受講生へのメッセージ	グラフィックソフトは、クリエイティブの現場であればこの先どんな業種に進むにしても使うことになります。絵筆やペンにかわるもうひとつの制作道具として、基本の使い方を習得しておきましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン基礎B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD・VA共通	1年次	2(60)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月3・4 木1・2	資格対応	—			
担当教員	寺島 克己・山崎 澄子						講師の実務 経験	○ グラフィックデ ザイン
授業概要	文字組みの概念と誌面レイアウトの基本を学びます。							
授業方法	ビジネス文書のレイアウトからチラシ作成まで段階的にレイアウトを通じて文字組みの反復していきます。またDTPスキルも学びます。							
授業目標	思考・判断・表現	読みやすい文字組み						◎
	技能	DTP操作スキル						◎
	関心・意欲・態度	目的に沿ったレイアウト						◎
	知識・理解	文字組みの						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物	30	20	—	20	70	
		受講態度(出席等を含む)	10	—	20	—	30	
		合計(点)	40	20	20	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 文字組み、DTPスキルの理解度							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。教科書『新解説DTP基礎』必要に応じてプリント配布・送付							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	オリエン、グラフィックデザインにおける文字組みの重要性							
3・4回	文字組みの概念							
5・6回								
7・8回	小テスト							
9・10回	レイアウト基礎/実践 情報の整理							
11・12回								
13・14回								
15・16回	まとめ							
備考								
時間外での学 修	コンセプトの考案や制作物の制作を進めてください。授業内では主に、アイデアに対するアドバイスや、クオリティのチェック、その他制作に対する助言をします。							
受講生への メッセージ	授業内では数回の文字組みの小テストを実施します。基本となる文字組の知識をしっかり身につけましょう。							

授業科目名	グラフィックデザイン		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD共通・PDE	VD2・3年次 PDE 1・2年次	2(60)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火3・4 水3・4	資格対応	—			
担当教員	寺島 克己					講師の実務 経験	○ グラフィックデ ザイン	
授業概要	グラフィックデザインというポスターなど平面的なものをイメージするかもしれませんが、グラフィックデザインが機能し必要とされる領域は広大です。こうしたグラフィックデザインの領域を把握し、ビジネスで求められるビジュアルコミュニケーションを学び実践します。							
授業方法	はじめにグラフィックデザインの領域を簡単にレクチャーし、それに沿った課題：「商品ロゴ」、「パッケージ制作」、「広告制作」など、プロモーションにおけるグラフィックデザイン演習をおこないます。本授業を通じて4作品を制作します。							
授業目標	思考・判断・表現	与えられた課題に対し、どのような制作物に仕上げるかという思考や判断、その結果としての制作物					◎	
	技能	ビジュアルコミュニケーションとしての制作物のコンセプトを考え、完成させる力を身につける					◎	
	関心・意欲・態度	制作物への取り組み、完成させる					◎	
	知識・理解	ビジネスで求められているグラフィックデザインの目的的理解					◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	制作物		30	20	—	20	70	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	—	30	
	合計(点)		40	20	20	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。制作物の完成度はもちろんですが、ビジュアルコミュニケーションとして機能するか、という点もチェックします。それぞれ明確なコンセプトを提示してください。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。パッケージ制作では、立体的なパッケージを制作するので、カッターやのり、ボンドなどが必要となります。制作に必要なものは各自用意してください。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	オリエンテーション グラフィックデザインについて							
3・4回	情報の整理と視覚化							
5・6回	タイポグラフィ、商品ロゴ制作/制作①							
7・8回	商品ロゴ制作を生かしたパッケージ制作/制作②							
9・10回								
11・12回	広告制作(カンパ制作、撮影、キャッチコピー、誌面レイアウト)/制作③							
13・14回								
15・16回	まとめ							
備考	上記の他に、印刷所見学を考えています(見学時の交通費はそれぞれの負担となります)。							
時間外での学修	コンセプトの考案や制作物の制作を進めてください。授業内では主に、アイデアに対するアドバイスや、クオリティのチェック、その他制作に対する助言をします。							
受講生へのメッセージ	目的を意識したグラフィックデザインでの表現力、クオリティを学び、就職活動へ反映してください。							

授業科目名	6次デザイン A・B・C・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	○	VD共通・PDE	VD2・3 /PDE1・2	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…VD2・3-2/B…VD3-3/C…PDE-1/D…PDE-2にそれぞれ配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	金1・2	資格対応	-			
担当教員	轟 久志					講師の実務 経験	○ グラフィックデ ザイン	
授業概要	毎年様々な現場に出向き、クライアントへの取材や現場の見学を行います。そこからクライアントの抱える課題を探り整理し、それらをデザインワークで解決していきます。こうした実地を踏むことで、社会に必要なデザインワークの根本動機を学ぶ授業です。本年は○○をクライアントとします。							
授業方法	本授業はプロジェクト型学習(PBL)となります。主にグループワークで、リサーチ→課題整理→デザイン提案・プレゼン→デザイン制作→効果検証という一連のプロセスを実践の中で学びます。授業内において実地研修や実際のクライアントとのやり取りが発生します。							
授業目標	思考・判断・表現	社会における問題点を発見し、解決策につながるクリエイティブ力を身につける						◎
	技能	要請に正しく応える造形を考え、制作・活用する力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	クライアントへの取材や、現場の見学などで能動的に働きかける力を身につける						◎
	知識・理解	リサーチ→課題整理→デザイン提案・プレゼン→デザイン制作→効果検証というデザインプロセスの重要性を知る						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物およびそのプロセス	30	30	-	5	65	
		クライアントへの取材・現場での見学	10	-	15	-	25	
		受講態度(出席等を含む)	-	-	10	-	10	
		合計(点)	40	30	25	5	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。デザイン制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	オリエンテーション							
第2回～第3回	現状調査(実地研修)							
第4回～第6回	企画立案、デザイン制作							
第7回	企業へのプレゼンテーション							
第8回	企画・デザインの修正、まとめ							
備考	上記は予定となります。クライアントの要請や進捗状況で変更する場合があります。							
時間外での学修	クライアントの要請に基づくプロジェクト型学習は、個人またはチームごとに授業外にも行うことを想定しています。授業外に、グループでの打ち合わせや制作などで、週に5時間程度の学習を要します。							
受講生へのメッセージ	クライアントの要請を探り、その要請に正しく答える、という正に「現場」を経験できる授業です。大変ですが一緒に楽しく学びましょう。							



授業科目名	レイアウトデザインA・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD3・PDE	VD3 2 年次 PDE 1 年次	2(60)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	A…VD-2/C…PDE-1にそれぞれ配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	金3・4 金1・2	資格対応	—			
担当教員	小林 勝彦						講師の実務 経験	○ グラフィックデザイ ン・広告企画制作
授業概要	書体と文字組、そこに画像などの絵柄を含めて配置方法のセオリーを習い、「よく伝える」という情報デザインの目的にかなうビジュアルデザインの文脈の成立を探る。							
授業方法	グラフィックデザインソフト、IllustratorやIndesignのパソコン操作で、シンプルな文字組から複要素のレイアウトへと制作を実習していく。							
授業目標	思考・判断・表現	レイアウトデザインの表現の豊かさについて考えを深める						○
	技能	情報に合わせた書体の特定力、必要な観点からの文字組の調整力、要素の構成力をつける						○
	関心・意欲・態度	文字デザインへの関心を深め、情報デザインの意義に興味を見いだす						◎
	知識・理解	書体の種類やその文字組方法を知り、ビジュアル文脈による伝わり方の質を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		10	10	10	10	40	
	制作の質		—	—	20	10	30	
	提出物の充足		—	—	15	15	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	パソコン(Mac)、グラフィックデザインソフト(Illustrator・Indesign)・エディター(テキストエディット等)、小説や論考等の書籍							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	読まれ方と文字組の試行							
3・4回	読まれ方と文字組の試行							
5・6回	ビジュアル要素の文脈構成の練習							
7・8回	ビジュアル要素の文脈構成の練習							
9・10回	ビジュアル要素の文脈構成の練習							
11・12回	情報デザイン制作物の完成							
13・14回	情報デザイン制作物の完成							
15・16回	情報デザイン制作物の完成							
備考								
時間外での学修	実技課題が授業時間内に仕上がらない場合。							
受講生へのメッセージ	ビジュアルデザインにも、文章のそれとはまた違った「文脈」があります。文書はひとつのビジュアルデザインで要素や順番はシンプルですが単一の文章より少し複雑です。さらに広告や雑誌などのビジュアルデザインとなるとかなり多要素の情報が入り組んでいます。そんなデザインを見出す鍵、文脈の成立を学びましょう。							

授業科目名	レイアウトデザインB・D		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	VD3・PDE	VD3 3 年次 PDE 2 年次	2(60)
必修・選択	VD必須 PDE選択	その他履修条件	B…VD-3/D…PDE-2にそれぞれ配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	金3・4 金1・2	資格対応	—			
担当教員	小林 勝彦						講師の実務 経験	<input type="radio"/> グラフィックデザイ ン・広告企画制作
授業概要	広告やサイン、Webなどメディアの種類に応じたよく伝わる情報デザインの文脈の成立を探る。							
授業方法	グラフィックデザインソフトやWebデザインソフトのパソコン操作で、多様なメディアのレイアウトデザインを実習する。							
授業目標	思考・判断・表現	情報デザインの表現におけるの新しさ、豊かさについて追求する						<input type="radio"/>
	技能	あらゆるメディアでのデザインに基礎となる文脈構築動機を生む						<input type="radio"/>
	関心・意欲・態度	メディア使用の目的に対するデザインに意義を発見する						<input checked="" type="radio"/>
	知識・理解	情報デザインのメディアの性質を知り、ビジュアル文脈の特質を理解する						<input checked="" type="radio"/>
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		10	10	10	10	40	
	制作の質		—	—	20	10	30	
	提出物の充足		—	—	15	15	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	45	35	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	パソコン(Mac)、グラフィックデザインソフト(Illustrator・Indesign・Photoshop)、Webデザインソフト(XD)・エディター(テキストエディット等)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	情報伝達目的とレイアウトの構想							
3・4回	ポスターなどシンプルな情報レイアウト							
5・6回	ポスターなどシンプルな情報レイアウト							
7・8回	パンフレットなど多要素の情報レイアウト							
9・10回	パンフレットなど多要素の情報レイアウト							
11・12回	パンフレットなど多要素の情報レイアウト							
13・14回	Webサイトの情報デザイン							
15・16回	Webサイトの情報デザイン							
備考								
時間外での学修	実技課題が授業時間内に仕上がらない場合。							
受講生へのメッセージ	文脈の構築力は、あらゆるメディアにおけるデザインの主旨となるべきものです。しかしメディアの特性によるその応用がハードルになって、敬遠されがちでもあります。しかし、メディアはこれからまだまだ新しく生まれてくるでしょう。こうした未来に、デザイナー、クリエイターは果敢に挑んでいくべき職業なのです。							

授業科目名	プロジェクトデザイン研究A・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	デザインライ ン	—	PDE	1・2年次	2(60)
必修・選択	必修	その他履修条件	A…PDE-1/B…PDE-2 にそれぞれ配当					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木2・3	資格対応	—			
担当教員	本藤 佳代子					講師の実務 経験	○ コピーライティ ング	
授業概要	<p>“プロジェクトとは、ある目標を設定し、その目標を達成するための計画をいいます。そしてプロジェクトの目標へ至るまでには大小様々なタスク(任務)が待っています。ひとつのプロジェクトを企画・発案し実行することは、そのプロジェクトが「何のために必要なのか」を意義づけるマクロな視点と、「どのように遂行するか」という、より現実的なミクロな視点の2つを持ち合わせなければなりません。授業では、実践の中でこの2つの視点を養いプロジェクトを実現化するための3つの力(判断力、決断力、そして行動力)を身につけます。”</p>							
授業方法	<p>各々が自由にプロジェクトを立ち上げる(各種コンペへの応募、社学連携など)。到達目標を定め、実現のための企画をします。リサーチなどのプロセスを経て、担当講師とのディスカッションなどを通しプロジェクトの完成度を高め、実現へととり着きます。必要に応じ特別講師のスポット招聘などもおこないます。</p>							
授業目標	思考・判断・表現	具体性のある目標を設定、タスクを整理し、実現に向けたロードマップを確立する						◎
	技能	思考・発想力および実制作の両面で、タスクを適切に処理する力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	プロジェクト実現のために意欲的かつ積極的な行動を起こす						◎
	知識・理解	目標達成の過程で必要な知識を蓄え、プロジェクトの持つ意義について理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	成果物①[企画書]		30	—	—	—	30	
	成果物②[制作物]		—	30	—	—	30	
	成果物③[報告書]		—	—	—	30	30	
受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10		
合計(点)		30	30	10	30	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 制作物はそれ自体の完成度だけでなく、それに対する第三者の評価も重要とします(プロジェクトデザイン研究では公開することを前提にすべて制作するため)。 完成品は直ちに必ずポートフォリオに追加、その都度提出し、プロジェクトデザイン工科大学アーカイブの作成(資料とデータ)提出”</p>							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	1年間の自分の最終目標を設定。							
第2回 以降	上記目標に向かって、1年を通して随時いくつかのプロジェクトの発案・制作・実施を積み重ねていきます。							
備考								
時間外での学修	プロジェクト型学習は授業外にも行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作、クライアントがいれば、その打ち合わせなどで、週に5時間程度の学習を要します。							
受講生へのメッセージ	自分でプロジェクトを立ち上げ完成までもっていくことは、非常に体力も根気もいることです。そして何より実践的に学べるはずで、自分のやりたいことを楽しみながら一緒に学びましょう。							

授業科目名	ムービーメイキング		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	映像ライン	○	VD共通・PDE	VD 2・3年次 PDE 1年次	2(60)
必修・選択	選択	その他履修条件	映像理論Bの履修が必要					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火 3・4 水 3・4	資格対応				
担当教員	中村 武志・小口 浩美 ほか					講師の実務 経験	○	映像ディレク ター ほか
授業概要	実写やアニメーションなど表現方法を問わず、30秒～3分程度のショートムービーを複数制作します。個人やグループ問わず主体的に制作を進めます。はじめに、実践的に映像の制作行程や表現の仕組みを学ぶため、それぞれが企画を立てます。それから、各制作工程におけるゲスト講師をお迎えし、講義や様々な映像事例を鑑賞しながら制作していきます。ムービーの実作を通し、まずは「やってみる」ことで、映像制作のイロハを学ぶ授業です。							
授業方法	制作中心の実技系科目です。担当講師はあくまでもサポートです。自ら制作物のイメージを固め、主体的に制作を進めてください。授業中に参考になる事例や技術的な工程を紹介したりしますが、基本的には授業外も含め制作を進めてください。もし疑問などがあれば授業時に聞けるようあらかじめまとめてください。							
授業目標	思考・判断・表現	ショートムービーを構想し制作し完成することができるクリエイターとしての基礎力を身につける						◎
	技能	基本的な構想力、制作工程を整理する力、編集力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	自由な発想で主体的に制作を進める力を養う						◎
	知識・理解	基本的な映像の仕組み、必要な最低限の工程を学ぶ						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物		25	20	10	20	75	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	25	—	25	
合計(点)		25	20	35	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC(Photoshop、After Effects、iMovie)、その他制作に必要なもの。							
その他参考書	テキスト:大河原浩『Adobe After Effects CC マスターブック』(必要により貸出)							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回(4月23日)	オリエンテーション1							
2回(4月24日)	オリエンテーション2							
3回～6回 (5月7日～15)	構想立てや簡単な絵コンテ制作のためのレクチャー							
7回・8回 (5月21日・22)	カメラ機材レクチャー							
9回・10回 (5月28日・29)	アニメーション制作レクチャー&制作(予定)							
11回・12回 (6月4日・5日)	制作相談							
13回～17回 (6月11日～25)	制作期間							
18回 (6月26日)	講評会・まとめ							
備考								
時間外での学修	授業内における制作期間はもちろん、実技系科目は授業外にも制作を行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作を進め、疑問や質問があれば講師に聞けるように準備してください。							
受講生へのメッセージ	映像表現は無限なので、型にとらわれず自由な発想で、挑んでください。							

授業科目名	写真表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	映像ライン	○	VD・VA共通	2・3年次	2(60)
必修・選択	選択	その他履修条件		-				
開講期	4月～6月(基礎履修期)		代表曜日・時限	木 1・2 金 1・2	資格対応	フォトマスター検定3級		
担当教員	金井 真一・大井川 茂					講師の実務経 験	○	フォトグラ ファー
授業概要	<p>デジタルワーク(大井川)とアナログワーク(金井)の2本立てとなります。</p> <p>デジタルワーク: デジタルカメラによるスタジオ撮影と、オンラインサービスを利用してのデジタルアルバム制作を行います。</p> <p>アナログワーク: モノクロフィルムで撮影、現像、暗室での作業を体験します。授業後半に写真展(本校内を予定)を開催し、モノクロ写真数点、デジタルアルバムの展示を行います。またフォトマスター検定試験(11月予定)過去問題集を参考に3級以上の合格を目指します。</p>							
授業方法	デジタルワーク(4月～5月中旬)講義から露出、スタジオライティング、RAW現像の実践。アナログワーク(5月中旬～6月)フィルムカメラの扱い方、フィルム現像、暗室作業。外部講師によるデジタルアルバムの制作講義(日程未定)写真展(6月下旬予定)							
授業目標	思考・判断・表現	被写体と向かい合い撮影から制作まで、見る人に伝わる表現						◎
	技能	露出や色調整、構図						◎
	関心・意欲・態度	撮影、現像、作品作りへの取り組み						◎
	知識・理解	基本的な写真原理を理解する。						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・態 度	知識・理解	合計(点)	
	制作物		10	10	10	10	40	
	撮影機材取り扱い		-	10	-	10	20	
	デジタルアルバム制作、提出期限		10	10	-	-	20	
	グループワーク(写真展準備)		-	-	10	-	10	
	受講態度(出席等を含む)		-	-	10	-	10	
	合計(点)		20	30	30	20	100(点)	
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。</p> <p>配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。</p>							
テキスト・教材	フォトマスター検定事務局『フォト検 過去問題の解答と解説』問題集、モノクロフィルム、印画紙、薬品、デジタルアルバム製本費用、写真展示用パネルなど都度購入が必要です。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション(授業概要説明など)							
2～7回	デジタルワーク、過去問題集読合せ、写真展準備(グループ分け)							
8回	ゲスト講師(ダンクセキ株式会社様による、デジタルアルバム制作方法講義)(予定)							
9～14回	アナログワーク、過去問題集読合せ、写真展準備(展示方法など具体的に)							
15回	写真展搬入							
16回	写真展搬出、まとめ							
備考								
時間外での学修	撮影、暗室作業、アルバム制作、写真展に向けてのグループ内で打ち合わせ準備。							
受講生へのメッセージ	映像をやりたい人も、写真の知識は必要だと思います。費用もかかりますが今経験出来る事を将来への糧にしてください。							

授業科目名	イラストレーション		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	イラストレーションライン	○	VD・VA共通	2・3年次	1(30)
必修・選択	選択	その他履修条件	-					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木1・2	資格対応	-			
担当教員	大橋 佳世子・渋沢 恵美						講師の実務経験	○ イラストレーション
授業概要	明確な制作物の設定をすることで、イラスト制作の意義を高めます。 クライアントからの依頼によるキービジュアル制作をとおし、幅広く考える力をつけ、自分らしい表現方法を確立していきます。							
授業方法	クライアントとオリエンテーション/制作1/企画プレゼンテーション/制作2・ブラッシュアップ/提出・講評							
授業目標	思考・判断・表現	イラストを通して情報を伝える力、表現力を身につける						◎
	技能	ビジュアルコミュニケーションの幅広い用途に用いられる平面的な表現方法を身につける						◎
	関心・意欲・態度	作品への取り組み意欲及び態度。丁寧な制作						◎
	知識・理解	基本的な画材の特性や使い方を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物及び提出物		30	20	10	10	70	
	受講態度(出席等を含む)		-	-	20	10	30	
合計(点)		30	20	30	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要に応じ配布。画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	クライアントとオリエンテーション							
2～4回	キービジュアルの制作1							
5回	クライアントへ向けてキービジュアルの企画プレゼンテーション							
6～8回	キービジュアルの制作2、ブラッシュアップ							
9回	まとめ・講評会							
備考								
時間外での学修	授業内における制作期間はもちろん、実技系科目は授業外にも制作を行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作を進め、疑問や質問があれば講師に聞けるように準備してください。							
受講生へのメッセージ	社会がイラストレーターに求めているのは、「人に意図したメッセージを伝えることができる力」です。「伝わる」イラストレーションを身につけましょう！							

授業科目名	アニメキャラクターアートA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	アニメキャラクターライン	-	VA共通	1年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	ファインアートAとどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2/ 水1・2/金3・4	資格対応	-			
担当教員	ながはり 朱実・小林 健太郎					講師の実務経験	イラストレーション・グラフィックデザイン	
授業概要	ストーリー性のある背景を持った個性的なキャラクターの表現力を養います。デジタル表現やアナログ表現など様々な技法を体験し、自身の目指す表現にあった技法を見つけます。また自分が目標とする作例などをリサーチし、それを目指し描写力・表現力を鍛えていきます。同時に、絵の表現にとどまらず、思い描く世界観が第三者に正しく伝わるよう、設定や物語を構築します。							
授業方法	デッサンや、構図の取り方、下絵の作り方、リサーチや基礎的なPCによる描画などを、それぞれの段階に合わせて実技指導します。外部での発表を見据え、授業では制作物に対する講評を受けます。そしてその講評を元に制作物などの完成度を上げていきます。授業中盤から授業内容は講評ベースとなります。必ず授業外でも制作を進めてください。							
授業目標	思考・判断・表現	「自分だからできる」という唯一の世界観(ストーリー性)を発見し、第三者に伝わる表現力を身につける						◎
	技能	キャラクターを成立させるための基本的な表現力(描写力)を養う						◎
	関心・意欲・態度	作品を仕上げる力を身につけ、作品の発表おこない、自身の課題に取り組む						◎
	知識・理解	自分が目標とする作例などをリサーチし、どのような意図や技法で描かれているか理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	制作物		15	15	-	-	30	
	制作プロセス		10	10	10	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		-	-	15	15	30	
	合計(点)		25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション・自己紹介							
2回	デッサン基礎、パース・陰影について理解します。							
3回	デッサン 静物画・構図について理解します。							
4回	デッサン 人体・自画像、目・鼻・口の位置、骨格など理解します。							
5回	色彩基礎 色相・彩度・明度について理解します。							
6回	色彩基礎 細密描写、描写力を身につけます。							
7回	色彩基礎 静物着色、モチーフをよく観察して混色の仕方など理解します。							
8回	立体基礎 紙立体、平面から立体への感覚を理解します。							
9回	立体基礎 立体構成、粘土で立体を作ることにより塊としてのボリューム感や、陰影の出来方などを理解します。							
10回	立体基礎 粘土による模刻、自然物から見つける形を発見し、学びます。							
11回	人体クローキー、人体のプロポーション、骨格など理解します。							
12回	人物画、クローキーからより深く学びます。							
13～15回	イメージ画、イメージを表現することを学びます。							
16～30回	個人制作							
備考								
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
受講生へのメッセージ	形を捉える力を付け、作品を仕上げる経験を多く積むことが重要です。基礎をしっかり学びましょう。							

授業科目名	アニメキャラクターアートB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	アニメキャラクターライン	—	VA2	2年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	ファインアートBとどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2 / 金3・4	資格対応	—			
担当教員	ながはり 朱実・小林 健太郎					講師の実務 経験	イラストレー ション・グラ フィックデザイ	
授業概要	ストーリー性のある背景を持った個性的なキャラクターの表現力を養います。デジタル表現やアナログ表現など様々な技法を体験し、自身の目指す表現にあった技法を見つけます。また自分が目標とする作例などをリサーチし、それを目指し描写力・表現力を鍛えていきます。同時に、絵の表現にとどまらず、想い描く世界観が第三者に正しく伝わるよう、設定や物語を構築します。							
授業方法	デッサンや、構図の取り方、下絵の作り方、リサーチや基礎的なPCによる描画などを、それぞれの段階に合わせ実技指導します。外部での発表を見据え、授業では制作物に対する講評を受けます。そしてその講評を元に制作物などの完成度を上げていきます。授業中盤から授業内容は講評ベースとなります。必ず授業外でも制作を進めてください。							
授業目標	思考・判断・表現	「自分だからできる」という唯一の世界観(ストーリー性)を発見し、第三者に伝わる表現力を身につける						◎
	技能	キャラクターを成立させるための基本的な表現力(描写力)を養う						◎
	関心・意欲・態度	作品を仕上げる力を身につけ、作品の発表おこない、自身の課題に取り組む						◎
	知識・理解	自分が目標とする作例などをリサーチし、どのような意図や技法で描かれているか理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法	制作物	15	15	—	—	30	
		制作プロセス	10	10	10	10	40	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	15	15	30	
		合計(点)	25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション・自己紹介							
2～30回	作品制作・各自の考えやテーマ、コンセプトを考え講師との対話などからイメージを明確にします							
	作品制作に取り組み完成度を高めます							
	※デッサン、人物画、人体クロッキーなど行ないます							
備考								
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
受講生へのメッセージ	積み上げた技術、経験を再度確認しましょう。 基礎を学ぶとともに、新しい自分の技術を習得する時間にしましょう。							



授業科目名	ファインアートA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	ファインアートライン	-	VA共通	1年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	アニメキャラクターアートAとどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2/ 水1・2/金3・4	資格対応	-			
担当教員	吉田 昌司						講師の実務 経験	○ 美術
授業概要	基礎的な能力を身につけ、各自の表現へと展開するため柔軟な取り組みを繰り返しながら観察する目を養い、知識・技法を学び描写力などの表現力を上げていきます。							
授業方法	基礎造形課題、デッサン・色彩の基礎知識・基礎立体構成の実技演習を行う。また各自の考え、作品のテーマから課題を見つけ制作します。							
授業目標	思考・判断・表現	観察眼を身につけ、自己の表現を深める。						◎
	技能	各課題から作品を完成する力を身につける。						◎
	関心・意欲・態度	柔軟な発想や考えで制作に取り組む。						◎
	知識・理解	造形の基礎知識を理解する。						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物		30	20	10	10	70	
	その他提出物		-	-	-	10	10	
	受講態度(出席等を含む)		10	-	10	-	20	
合計(点)		40	20	20	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 自身のプロセスをたどる手がかりとして、アイデアなどを自由にノートに書き留める制作ノートを制作し、ファインアートAでの学習のまとめとして提出します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。色彩用具。各自で用意できるものは用意する。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布します。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション・自己紹介							
2回	デッサン基礎、パース・陰影について理解する							
3回	デッサン 静物画・構図について理解する							
4回	デッサン 人体・自画像、目・鼻・口の位置、骨格などを理解する							
5回	色彩基礎 色相・彩度・明度について理解する							
6回	色彩基礎 細密描写、描写力を身につける							
7回	色彩基礎 静物着彩、モチーフをよく観察して混色の仕方などを理解する							
8回	立体基礎 紙立体、平面から立体への感覚を理解する							
9回	立体基礎 立体構成、粘土で立体を作ることにより塊としてのボリューム感や、陰影の出来方などを理解する							
10回	立体基礎 粘土による模刻、自然物から見つける形を発見して学ぶ							
11回	人体クローキー、人体のプロポーション、骨格などを理解する							
12回	人物画、クローキーからより深く学ぶ							
13～15回	イメージ画、イメージを表現することを学ぶ							
16～30回	個人制作・ポートフォリオの制作する							
備考								
時間外での学修	多くのデザイン・アート作品を、作品集、展覧会、インターネットなどで鑑賞するように心がけ表現する現場を確認して下さい。							
受講生へのメッセージ	講師は学生の自覚をサポートする立場でありますので、面談などしながら自己の表現へと繋げていきます。							

授業科目名	ファインアートB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	ファインア ートライン	—	VA2	2年次	4(120)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	アニメキャラクターアートBとどちらかを必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2 水1・2/金3・4	資格対応	—			
担当教員	吉田 昌司						講師の実務 経験	○ 美術
授業概要	各自が表現を模索・深める為の授業であることを理解し、自分自身との対話を進めることに重点をおき能動的な姿勢を求め主体的に取り組みます。自分の考えや自己のテーマに沿った素材や技法を研究し、自身の作品性をつかみ表現します。							
授業方法	今までの課題や、日常生活の中から自己の制作目標やテーマを考えイメージを膨らませ制作に取り組みます。							
授業目標	思考・判断・表現	各自、制作目標やテーマ、コンセプトを考え表現します						◎
	技能	素材や技法を選び、各自のイメージに近づけるよう完成度を高めます						◎
	関心・意欲・態度	自身の作品を客観視しながら、柔軟な発想や考えで制作に取り組みます						◎
	知識・理解	現代のアート表現、自身の作品が何を投げかけるかを理解します						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物	30	20	10	10	70	
		その他提出物	—	—	—	10	10	
		受講態度(出席等を含む)	10	—	10	—	20	
		合計(点)	40	20	20	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 自身のプロセスをたどる手がかりとして、アイデアなどを自由にノートに書き留める制作ノートを制作し、ファインアートBでの学習のまとめとして提出します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ばうきなどのデッサン用具。色彩用具。各自で用意できるものは用意する。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布します							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーションと自己紹介							
2～27回	作品制作・各自の考えやテーマ、コンセプトを考え講師と対話などイメージを明確にする							
	素材や技法を選び研究し、作品制作に取り組み完成度を高める							
28～30回	ファインアートBでの学びの振り返り及びポートフォリオを制作する							
備考								
時間外での学修	多くのデザイン・アート作品を、作品集、展覧会、インターネットなどで鑑賞するように心がけ表現している現場を確認して下さい。							
受講生へのメッセージ	講師は学生の自覚をサポートする立場でありますので、面談などしながら自己の表現へと繋げていきます。							

授業科目名	ビジュアル表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD・VA共通	1年次	1(30)
必修・選択	ビジュアル表現	その他履修条件	基礎履修期集中講座(2期)					
開講期	4月・6月中旬(基礎履修期)	代表曜日・時限	火～金 1・2	資格対応	—			
担当教員	相澤 徳行					講師の実務 経験	○ グラフィックデ ザイン	
授業概要	視覚造形の基礎を学びながら、個性的な発想・個性的な表現を探っていきます。授業では、紙と筆記用具ベースで実際に手を動かすこと重視し創作していきます。各回の授業のはじめには発想トレーニングをします。							
授業方法	基礎履修期のはじめと終わりの2期に分けて行う集中講座となります。授業内ではテーマごとにテキストを配布し、それに基づき講義と実技演習を行います。キャンパスを出て「取材」をすることもあります。							
授業目標	思考・判断・表現	既成概念に縛られない構想法による自由で柔軟な発想を身につける						◎
	技能	発想を制作物に落とし込む力を身につける						○
	関心・意欲・態度	一次的な造形試行(実際に観る、調べる、実際に手で素材を探るなど)から創造的動機を引き出す力を身につける						◎
	知識・理解	一次的な造形試行の必要性を理解する						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物	40	10	—	—	50	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	40	10	50	
		合計(点)	40	10	40	10	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	授業時に必要なテキストは配布します。 紙、筆記用具、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	デザインって何だろう？							
2・3回	色に遊ぶ(明度・彩度・色相)							
4・5回	形に遊ぶ(点・線・面)							
6・7回	テクスチャーに遊ぶ(素材感・触感)							
8回	まとめ							
備考								
時間外での学修	実技系科目は、授業外にも制作を行うことを想定しています。課題は必ず完成させて提出してください。							
受講生へのメッセージ	造形する上で重要な発想トレーニング、エクササイズです。自由に、そして柔軟に、みんなで楽しく取り組みましょう。							

授業科目名	描写1ーデッサン		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD共通	1年次	2(60)
必修・選択	必修	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3・4 火1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋 佳世子						講師の実務経 験	—
授業概要	あらゆる造形活動の基礎となる観察力・描写力を養います。デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。まずは透視図法を理解し、形が正確に描けること。そしてどうしたら立体感が出せるか、平面の上に鉛筆を使って、三次元の空間を再現する方法を学びます。							
授業方法	デッサンの理論をまとめたテキストを配布しながら講義を行い、その後、実技実習となります。各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して10枚程度のデッサンを完成させます。							
授業目標	思考・判断・表現	デッサンの理論からの描写法を身につける						◎
	技能	観察からの描写法を身につける						◎
	関心・意欲・態度	作品への取り組み態度(一枚、一枚妥協せず完成させる)						◎
	知識・理解	基本的なデッサンの理論を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・態 度	知識・理解	合計(点)	
	制作物及び提出物		20	20	10	20	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	20	30	
	合計(点)		20	20	20	40	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。テキストは必要により配布。テキストを入れる透明ファイル、直定規(30センチ)を毎回用意すること。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	描くための準備:道具の使い方などを習得する							
3・4回	遠近法について・基本形態の理解・ボリューム感/制作①②							
5・6回	光と影について・質感表現・基本形態の応用/制作③④							
7・8回	課題制作⑤							
9・10回	課題制作⑥							
11・12回	課題制作⑦							
13・14回	課題制作⑧							
15・16回	課題制作⑨							
備考								
時間外での学修	デッサンの理論をまとめたペーパーを配布しますので、必ず、授業外でも読み込み、用語を深く理解すること。また、各自スケッチブック等を使いエスキースなどを通し、形の取り方、影の付け方、質感の出し方などをおさらいすること。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人は重要な基礎力となります。課題は必ず完成させて提出すること。							

授業科目名	描写2-想定デッサン		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD3・PDE	VD1年次/ PDE1・2年次	1(30)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋 佳世子						講師の実務経 験	—
授業概要	基礎的なデッサンからの応用。自身の想像力で平面の上に鉛筆を使って、三次元の空間を再現することをします。構想力をつけながら、「視覚伝達」の方法を考察していきます。							
授業方法	授業始めに簡単な説明と講義を行い、その後、実技実習となります。実習は、まず講師と構想などのディスカッションをし、それから描く作業へと進めていきます。各課題作品ができたところで、講評を行います。授業全体を通して4枚程度のデッサンを完成させます。							
授業目標	思考・判断・表現	想像力、構想力、描写力を身につける						◎
	技能	デッサンの基礎的な理論からの応用的描写力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	作品への取り組み態度(一枚、一枚妥協せず完成させる)						◎
	知識・理解	基本的なデッサンの理論を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・態 度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物・提出物		30	20	10	10	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	10	30	
合計(点)		30	20	30	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうき、直定規(30センチ)などのデッサン用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できる。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	課題制作① ※全部で何回あるかわからないので???							
2回	課題制作①							
3回	課題制作①							
4回	課題制作①							
5回	課題制作①							
6回	課題制作①							
7回	課題制作①							
8回	課題制作①							
備考								
時間外での学修	課題が提示されたら必ずたくさんのエスキースを作ること。授業中完成できない作品は時間外で完成させること。未完成で提出しないこと。							
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。							

授業科目名	描写3-人体		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD3・PDE	VD2・3年次/ PDE1・2年次	2(60)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火 3・4 火 1・2	資格対応	—			
担当教員	大橋 佳世子						講師の実務経 験	—
授業概要	人体のフォームや動きにみえる骨と筋肉を理解し、描写できること。							
授業方法	石膏デッサンから描写力を養う/基本の解剖学、人体の骨と筋肉/着衣の人体モデルを使って人体デッサンを身につける							
授業目標	思考・判断・表現	人体の骨格や筋肉図を理解し、プロポーションが取れるようにする						◎
	技能	解剖図を理解しながら、人体を観察し描写力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	作品への取り組み、意欲及び態度。丁寧な制作						◎
	知識・理解	基本的なデッサンの理論を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・ 表現	技能	関心・意欲・態 度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		30	20	10	10	70	
	制作物及び提出物		—	—	20	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		30	20	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要に応じ配布。画材は各自で用意する							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	基礎デッサン/石膏デッサン①							
3・4回	石膏デッサン①							
5～8回	石膏デッサン②							
9～17回	人体解剖図の学習・クロッキーを含めた人体デッサン							
備考								
時間外での学修								
受講生へのメッセージ	デッサンは造形の基礎です。絵が上手になりたい人はもちろん、造形に携わる人には重要な基礎力となります。							

授業科目名	美術学習論実習A・B・C・D・E			科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
				実技	共通	—	全科共通	1・2・3年次	4(120)	
必修・選択	選択	その他履修条件	A…VD・VA-1/B…VD・VA-2/C…VD-3/D…PDE-1/E…PDE-2にそれぞれ配当							
開講期	通年	代表曜日・時限	土3・4	資格対応	—					
担当教員	吉田 昌司・ながはり 朱実・小林 勝彦・樋口 杏・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	美術・イラストレー ション・グラフィッ クデザイン		
授業概要	長野美術専門学校付帯講座である「ながのこども美術学校」のスタッフとして受講します。 学童期(6～12歳)の子供達の純粋な表現に触れる場所で自然や、さまざまな素材、ものに触れたり、「デザイン」「アート」「マルチ美術」による課題を一緒に考えることにより、感情や情緒を育み、創造的で、個性的な心の働きを豊かに、絵や形で表現することの手助けや、道徳的な意識や価値観を養います。また、授業での体験から社会とのつながりを持つワークショップの場においても、参加する人の為に課題などの作り方を考える事や運営に生かしていきます。									
授業方法	講座前後30分を設営準備、後片付けの時間とし計3時間の授業となり子供達と同じ課題を制作します。設営準備では当日の内容確認ミーティングを、後片付けでは当日の反省会等を毎回行い、講師とスタッフ間の連体を大切にすることにより、スタッフとしての講座運営を円滑にします。									
授業目標	思考・判断・表現	授業が円滑に進められサポート出来る思考や判断力、社会性、コミュニケーション力を身につける						◎		
	技能	課題を理解してわかりやすく子供達に説明する事や、子供達の表現が出来るように導く力を身につける						◎		
	関心・意欲・態度	子供達と同じ課題を制作し講評会おこなうことや、講師とスタッフとの反省会から自ら課題を見つけ次へとつなげる						◎		
	知識・理解	基本的な美術用具の使い方、本校で学んだ美術知識。学童期の社会生活に必要な基礎的知識。送迎時における保護者との関わり方を理解する						◎		
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。								
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)			
	評価方法		制作物	10	10	10	10	40		
			受講態度(出席等を含む)	10	20	20	10	60		
			合計(点)	20	30	30	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。									
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具、色彩用具。テキストは必要により配布。カリキュラムにより各自用意できるものは各自で用意します。									
その他参考書										
授業計画										
実施回・期間	授業内容・目標									
4月～3月	各講座カリキュラム表参照・各課題、子供達の表現がしやすい授業を心がける									
備考										
時間外での学修	本校での授業からそれぞれの技術・知識をよく学んでおきましょう。課題によってデジタルカメラやパソコンなどを使います。									
受講生へのメッセージ	子供達は、私たちの事をよく見ています。社会性のある言動や行動、コミュニケーションを心がけましょう。									

授業科目名	総合制作 1・2・3		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	共通	—	VD・VA共通	1・2・3年次	8(240)
必修・選択	必須(3は選択)	その他履修条件	1…VD・VA-1/2…VD・VA-2/3…VD-3にそれぞれ配当					
開講期	11月～1月(総合制作期)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	寺島 克己・大橋 佳世子・中村 武志・ながはり 朱実・吉田 昌司・松本 直樹 ほか					講師の実務 経験	<input type="checkbox"/> グラフィックデザイン・映像クリエイター・イラストレーター・美術・ほか	
授業概要	各次における学びの集大成としての制作に取り組みます。「美専修学ライン」に沿い、VD科は「デザインライン」「イラストレーションライン」「映像ライン」(映像ラインは2年次より)の3つから、VA科は「アニメキャラクターライン」と「ファインアートライン」から選択し、出題された課題に基づき、アイデアを練りながら企画書を作成します。この企画書を足掛りとして制作をはじめます。必要によって講師に相談やサポートを要請し、自身の制作における問題解決の補助とします。また、制作物は『学内展示』を前提とし制作を進め「合同講評会」では制作物についてプレゼンテーションを行いません。充実した制作期間となるよう主体的に取り組みます。							
授業方法	個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等がある場合は、他所での制作を許可する「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。							
授業目標	思考・判断・表現	各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質への到達経験をする						◎
	技能	各ラインにおける課題の意図を理解し、主体的に取り組み、制作物を完成させる						◎
	関心・意欲・態度	制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう						◎
	知識・理解	—						△
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物		20	10	10	—	40	
	中間報告会を含むプロセス		10	10	10	—	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	—	30	
合計(点)		40	30	30	—	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
11月	総合制作導入プログラム(企画の立案、企画書作成、制作の開始)							
12月	中間経過報告会							
1月下旬	制作物提出							
1月末	学内展示、合同講評会							
備考								
時間外での学修	制作ベースの授業は、制作時間が予期せず授業時間の範囲を超えることが多くあります。授業外においても制作を行い計画的に取り組むことが求められます							
受講生へのメッセージ	1月下旬の校内展示と、合同講評会をもって成果とします。粘り強く諦めずに制作しましょう。							



授業科目名	総合研究 A・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	専門	—	PDE	1・2年次	8(240)
必修・選択	選択	その他履修条件						
開講期	11月～1月(総合制作期)	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	本藤 佳代子・松本 直樹					講師の実務 経験	○ コピーライティ ング・美術	
授業概要	各次における学びの集大成としての制作に取り組みます。自身で企画した開発したプロダクトやサービスを販売、もしくはプロモーションを目的をした、イベントやキャンペーンとして実施してください。 必要により、講師に相談やサポートを要請し、自身の制作における問題解決の補助とします。また場合により担当講師外のゲストなどを招聘することも可能です。							
授業方法	個人制作が中心となります。主体的に制作を進めてください。大きな制作物や取材等がある場合は、他所での制作を許可する「外部制作届」があります。必ず提出し、担当講師をはじめとした教員への相談やサポートを仰ぎ、集大成としての制作物を完成させてください。							
授業目標	思考・判断・表現	各次における修学の集大成を制作によって達成しプロフェッショナルレベルの質へ到達する					◎	
	技能	課題の意図を理解し、主体的に進め制作物を完成させる					◎	
	関心・意欲・態度	制作においてスケジュールやプロセスの管理などのセルフマネジメントをおこなう					◎	
	知識・理解	—					△	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	制作物		20	10	10	—	40	
	中間報告会を含むプロセス		10	10	10	—	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	10	10	—	30	
	合計(点)		40	30	30	—	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
11月	総合研究導入プログラム[「総合制作」授業合同プログラム](企画の立案、企画書作成、制作の開始)							
12月	中間経過報告会							
1月下旬	制作物提出							
1月末	学内展示、合同講評会							
備考								
時間外での学修	制作ベースの授業は、制作時間が予期せず授業時間の範疇を超えることが多くあります。授業外においても制作を行い計画的に取り組むことが求められます。							
受講生へのメッセージ	学びの集大成として、丹念にそして誠実な取り組みと、これまで培ってきた能力のすべてを傾けた制作を期待します。							

授業科目名	ライン別ゼミA・B・C		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	○	VD・VA共通	1・2・3年次	5(150)
必修・選択	必修(Cは選択)	その他履修条件	A…VD・VA -1/B…VD・VA -2/C…VD-3 にそれぞれ配当					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火・水・金	資格対応	—			
担当教員	寺島 克己・大橋 佳世子・中村 武志・ながはり 朱実・吉田 昌司・松本 直樹 ほか					講師の実務経験	○ <small>グラフィックデザイン・映像クリエイター・イラストレーター・美術ほか</small>	
授業概要	みなさんにとって、本校の基礎履修期に配当された多くの科目が「学びの視野を広げるもの」であるならば、ライン別ゼミは「各専門性をよりも深く学ぶもの」として用意されたものです。ゆえに、学び集大成である「総合制作」の前に設置されています。上記の設定意図から、制作物の完成を前提とした実技演習を中心とし、実践的なワークを含め、各ゼミにおける授業スケジュールは、ラインごとの専門性によって異なります。また全ての年次が同じゼミのもと、ひとつの教室で授業をおこなうことも、その特徴となります。ビジュアルデザイン科は、デザイン、イラストレーション、映像(2年次のみ)、ビジュアルアート科は、アニメキャラクター、ファインアートの各ラインに分かれます。なお夏期授業期間においてはラインごと課題が出題されます。							
授業方法	実技ベースの授業で、各ラインの特性に合わせた授業がそれぞれ展開します。主にデザインラインはグループワークが中心となり、その他の授業は、個人制作がメインとなっていきます。							
授業目標	思考・判断・表現	制作を通し、各ラインの専門性に適した表現を実践的に学ぶ						◎
	技能	個人実技はもちろん、グループワークにおいてもそれぞれの専門性特有の技能を身につける						◎
	関心・意欲・態度	制作物を完成させ、発表ないしはクライアントへの納品まで行い、制作の先まで経験する						◎
	知識・理解	各専門性に必要な知識を深く学び、プロフェッショナルのレベルを知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物	10	10	10	10	40	
		制作プロセス	5	5	5	5	20	
		受講態度(出席等を含む)	10	10	10	10	40	
		合計(点)	25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
7月1日～5日	ライン別ゼミ導入プログラム							
7月6日～25日	ゼミごとの課題やオリエンテーション							
7月26日～10月30日	制作等の実技							
10月31日	ラインゼミごとのまとめ							
備考	ゼミ期:7月1日～10月31日(夏期授業期間:7月1日～8月25日)							
時間外での学修	制作ベースの授業は、授業外での取り組みを念頭においています。授業外でも制作をしてください。加えて、デザインラインなどのクライアントの要請に基づくプロジェクト型学習においては、チームごとの打ち合わせなどもあります。							
受講生へのメッセージ	各専門性について深く学ぶ機会です。しっかりと制作に励み、経験を積み、そして成長の糧としてください。							

授業科目名	ライン別ゼミD・E		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	○	PDE	1・2年次	5(150)
必修・選択	選択	その他履修条件	D…PDE-1/E…PDE-2にそれぞれ配当					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火・水・金	資格対応	—			
担当教員	本藤 佳代子・寺島 克己・大橋 佳世子・中村 武志・松本 直樹 ほか						講師の実務経験	○ グラフィックデザイン・映像クリエイター・イラストレーター・美術ほか
授業概要	<p>みなさんにとって、本校の基礎履修期に配当された多くの科目が「学びの視野を広げるもの」であるならば、ライン別ゼミは「各専門性をよりも深く学ぶもの」として用意されたものです。ゆえに、学び集大成である「総合制作」の前に設置されています。</p> <p>上記の設定意図から、制作物の完成を前提とした実技演習を中心とし、実践的なワークを含め、各ゼミにおける授業スケジュールは、ラインごとの専門性によって異なります。また全ての年次が同じゼミのもと、ひとつの教室で授業をおこなうことも、その特徴となります。</p> <p>プロジェクトデザイン工科は、デザインラインゼミ、イラストレーションラインゼミ、映像ラインゼミ、プロジェクトデザイン研究ゼミの中からクラスを選択します。なお夏期授業期間においてはラインごとと課題が出題されます。</p>							
授業方法	<p>実技ベースの授業で、ゼミの特性に合わせた授業がそれぞれ展開します。</p> <p>主にデザインラインはグループワークが中心となり、その他の授業は、個人制作がメインとなっていきます。</p>							
授業目標	思考・判断・表現	制作を通し、各ラインの専門性に適した表現を実践的に学ぶ						◎
	技能	個人実技はもちろん、グループワークにおいてもそれぞれの専門性特有の技能を身につける						◎
	関心・意欲・態度	制作物を完成させ、発表ないしはクライアントへの納品まで行い、制作の先まで経験する						◎
	知識・理解	各専門性に必要な知識を深く学び、プロフェッショナルのレベルを知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		制作物	10	10	10	10	40	
		制作プロセス	5	5	5	5	20	
		受講態度(出席等を含む)	10	10	10	10	40	
		合計(点)	25	25	25	25	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
<b>授業計画</b>								
実施回・期間	授業内容・目標							
7月1日～5日	ライン別ゼミ導入プログラム							
7月6日～25日	ゼミごとの課題やオリエンテーション							
7月26日 ～10月30日	制作等の実技							
10月31日	ラインゼミごとのまとめ							
備考	ゼミ期:7月1日～10月31日(夏期授業期間:7月1日～8月25日)							
時間外での学修	制作ベースの授業は、授業外での取り組みを念頭においています。授業外でも制作をしてください。加えて、デザインラインなどのクライアントの要請に基づくプロジェクト型学習においては、チームごとの打ち合わせなどもあります。							
受講生へのメッセージ	各専門性について深く学ぶ機会です。しっかりと制作に励み、経験を積み、そして成長の糧としてください。							

授業科目名	インターンシップVD				科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
					実技	○	VD3	3年次	5(150)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	キャリアアップ実習とどちらかを必修						
開講期	7月～8月(夏季授業時間)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—				
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳							講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。								
授業方法	夏期授業期間を中心に、県内の各企業で1名ずつインターンシップ(1ヶ月程度)を実施します。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。								
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ							◎
	技能	-							△
	関心・意欲・態度	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す							◎
	知識・理解	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる							○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	評価方法								
	提出物		10	—	10	10	30		
	他者との協同		10	—	10	10	30		
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40		
合計(点)		35	—	35	30	100(点)			
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。								
テキスト・教材	インターンシップノート・その他必要に応じて配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップVDの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。								
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップVDの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。インターンシップ先について個別相談。								
6月	【インターンシップ先交渉】希望する企業に対して、学生自身が依頼し、交渉する。								
第3回	【マナー講座】インターンシップを前に基本的なマナーを学びます。								
第4回	【企業別事前オリエンテーション①】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。								
第5回	【企業別事前オリエンテーション②】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。								
夏期授業期間	【インターンシップ】								
第6回	【企業別ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。								
第7回	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを全体で共有します。								
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。								
時間外での学修	インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。								
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。希望する現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を活かしていきましょう。								

授業科目名	キャリアアップ実習				科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
					実技	○	全科共通	VD2・3年次 /PDE1・2年次	5(150)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	各年次のインターンシップとどちらかを選択						
開講期	7月～8月(夏季授業期間)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—				
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳							講師の実務 経験	—
授業概要	都会生活をしながら職場実習を行います。インターンシップ先は東京銀座にある「日本デザインセンター」。日本有数の産業を営むクライアントとの深い関わりを持ちながら、我が国にデザイン文化を打ち立ててきた日本最大級のデザインプロダクションです。 長野美術専門学校では学校長が出身者であり、往年の同社の業績を支えて来ました。このような縁からインターンシップ生の受け入れを承諾いただくことが出来ました。「原研哉」をはじめとした、日本をリードする数多くのデザイナーと一緒に職場で実習しましょう。								
授業方法	希望した学生の中から校内選考をして、日本デザインセンターでの審査を受けます。審査に通った学生がこのインターンシップに参加できます。インターンシップは夏期授業期間に予定しています。インターンシップ前後には準備とふりかえりを行います。								
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ 地域での成長を期す自分を見つめるための視野を広げる機会とする							◎
	技能	—							△
	関心・意欲・態度	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す							◎
	知識・理解	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる							○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	評価方法		10	—	10	10	30		
	提出物		10	—	10	10	30		
	他者との協同		15	—	15	10	40		
	受講態度(出席等を含む)		35	—	35	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となり。全での日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。								
テキスト・教材	インターンシップノート・その他必要に応じて配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
4月-5月	【キャリアアップ実習オリエンテーション】キャリアアップ実習の目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。選考内容の公表。								
5月	【校内選考】書類提出と面接にて選考します。								
5月	【校内選考者決定】								
6月	【審査】日本デザインセンターの書類審査を受けます。								
7月	【審査結果発表】								
7月	【事前オリエンテーション】インターンシップ前にオリエンテーションを行います。								
夏期授業期間	【インターンシップ】								
9月	【ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。								
9月	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを他学生へ共有します。								
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 インターンシップ期間中は東京での生活です。交通費、生活費等は基本的には本人負担です。 一部学校からの奨励補助金があります。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。								
時間外での学修	インターンシップに向けた準備を各自進める。								
受講生へのメッセージ	日常では体験できない得難い機会です。事前準備を含めて、自分自身の視野と考えを広げる機会としましょう。								

授業科目名	インターンシップPED A・C			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				実技	○	PDE	1・2年次	5(150)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	A…PDE-1/C…PDE-2にそれぞれ配当					
開講期	7月～8月(夏期講習期間)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。							
授業方法	夏期授業期間を中心に、県内の各企業で1名ずつインターンシップ(1ヶ月程度)を実施します。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。							
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎
	知識・理解	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	その他提出物		10	—	10	10	30	
	他者との協同		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40	
	合計(点)		35	—	35	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。							
テキスト・教材	インターンシップノート・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップPED_Aの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。							
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップPED_Aの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。インターンシップ先について個別相談。							
6月下旬	【インターンシップ先決定】個別相談をもとにインターンシップ先を決定します。							
第3回	【マナー講座】インターンシップを前に基本的なマナーを学びます。							
第4回	【企業別事前オリエンテーション①】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。							
第5回	【企業別事前オリエンテーション②】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。							
夏期授業期間	【インターンシップ】							
第6回	【企業別ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。							
第7回	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを全体で共有します。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。							
時間外での学修	インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を見つけましょう。							

授業科目名	インターンシップPED B			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)	
				実技	○	PDE	1年次	3(90)	
必修・選択	選択	その他履修条件	—						
開講期	2月～3月(総合制作期)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—				
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	—	
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。								
授業方法	2月を中心に、県内の各企業で1名ずつインターンシップ(10日間から15日間)を実施します。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。								
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎	
	技能	—						△	
	関心・意欲・態度	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎	
	知識・理解	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	評価方法		提出物	10	—	10	10	30	
			他者との協同	10	—	10	10	30	
			受講態度(出席等を含む)	15	—	15	10	40	
			合計(点)	35	—	35	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～と なります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。								
テキスト・教材	インターンシップノート・その他必要に応じて配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップPED.Bの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。								
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップPED.Bの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。インターンシップ先について個別相談。								
12月-1月	【インターンシップ先交渉】希望する企業に対して、学生自身が依頼し、交渉する。								
第3回	【マナー講座】インターンシップを前に基本的なマナーを学びます。								
第4回	【企業別事前オリエンテーション①】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。								
第5回	【企業別事前オリエンテーション②】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。								
夏期授業期間	【インターンシップ】								
第6回	【企業別ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。								
第7回	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを他学生へ共有します。								
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。								
時間外での学修	インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。								
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。希望する現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を活かしていきましょう。								

授業科目名	就職実践		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	○	VD3	3年次	10(300)
必修・選択	選択必修	その他履修条件	インターンシップVD及びキャリアアップ実習、ゼミ期 各授業とどちらかを選択					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	小林 駿・塚田 佳子・和田 邦彦						講師の実務 経験	—
授業概要	<p>企業の中で長期に渡る仕事体験を個人に合わせたプログラムとして実施します。          仕事をする上でどんなスキルが必要なのか、どんな力が必要なのかを、体験やそこで働く方々の姿勢から学んでください。自分の強みをインターンシップ期間中に見つけ、活かして今後の自分の進路に役立ててください。</p>							
授業方法	中長期にわたるインターンシップです。履修登録後のヒアリングを通し、企業とのマッチングをはかります。							
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	教えを待つのではなく、自ら進んで学びとる姿勢を身につける						◎
	知識・理解	仕事上でどんなスキルが必要なのか、どんな力が必要なのかを体験やそこで働く方々の姿勢から学びとる						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	—	10	10	30	
	他者との協同		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40	
合計(点)		35	—	35	30	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。          全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。          企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。</p>							
テキスト・教材	「インターンシップノート」(授業内で配布)							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
5月上旬	希望調査							
6月下旬	プログラム内容の決定 ※プログラム内容により、インターンシップ先等を決定し、取り組む							
8月～10月	インターンシップ実施期間							
11月上旬	ふりかえり							
備考	<p>授業の実施時期・曜日または時間に変更になることがあります。会社までの交通費は自己負担です。          ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。</p>							
時間外での学修	企業リサーチなども含め、インターンシップに向けた準備を各自進める。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。希望する現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を活かしていきましょう。							



授業科目名	プロモーションワークA・B・C・D・E		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			実技	総合	—	全科共通	1・2・3年次	4(120)
必修・選択	A・B必修 C・D・E選択	その他履修条件	A…VD・VA -1/B…VD・VA -2/C…VD-3/D…PDE-1/E…PDE-2 にそれぞれ配当					
開講期	12月～3月	代表曜日・時限	火～金 1～3	資格対応	—			
担当教員	小林 駿・大栗 絵梨佳・塚田 佳子						講師の実務 経験	—
授業概要	自分の制作物を伝える場である「美専展」の計画及び運営を行います。チームを作り、学生が協働して展覧会を開催します。							
授業方法	学生主体の授業運営が基本となります。学生は活動規模や、美専展報告会までのスケジュールリングは各チームの企画・計画に依ります。必要に応じてスポット講師の招聘や、学校側との打ち合わせを行います。							
授業目標	思考・判断・表現	公共性の高いプロモーションマインドとチームワークに必要な連携意識を醸成する。						◎
	技能	プロモーションやチーム運営に必要なスキル、マインドセット全般を習得する。						◎
	関心・意欲・態度	「美専展」の運営に、主体性と協調性をもって参画する。						◎
	知識・理解	大規模なクリエイティブワークの実施におけるプロモーションとグループワークの重要性を理解する。						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	ポートフォリオの提出		10	10	—	—	20	
	グループワーク		10	20	10	—	40	
	受講態度(出席、取り組み姿勢、自己評価等)		10	—	20	10	40	
合計(点)		30	30	30	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。自身の設定した目標達成までのプロセスや、各グループにおいて役割を果たし、主体的に参画できたか、またその後のふりかえりも評価に加えます。							
テキスト・教材	「美専展ファイル」、その他必要に応じて授業内で配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	授業目的の確認、サブタイトルの決定							
第2回	役割の決定、チームの計画案作成							
第3回	ガントチャートの作成							
第4回～第29回	計画及び準備、美専展実施、報告会準備、履歴書用写真の撮影[対象:一年次生]							
第30回	美専展報告会							
備考	一年次生は授業期間中に履歴書用写真の撮影を行います。1,700円程の費用が必要です。							
時間外での学修	基本的に授業内での活動が主となりますが、チーム毎の企画、計画によっては授業時間外の活動も必要になります。							
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作物を「どのように見せるか」は実制作そのものと同じくらいに重要な意識のあり方であり、卒業後にクリエイターとして活躍するには必須のスキルでもあります。この機会にぜひ身につけましょう。</li> <li>・グループワークに苦手意識を感じる方は多いと思います。しかし、社会に出てからは、「個」というよりも「組織の一員」として行動することが強く求められます。将来につながる重要な基礎力、実践力を育む機会としては是非意欲的に取り組んで下さい。</li> </ul>							

授業科目名	クリエイティブワーク総論A・B・C・D・E		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	1・2・3年次	2(32)
必修・選択	必修(Cのみ選択)	その他履修条件	A…VD・VA-1/B…VD・VA-2/C…VD-3/D…PDE-1/E…PDE-2にそれぞれ配当					
開講期	通年	代表曜日・時限	月1・2	資格対応	—			
担当教員	小林 勝彦・松本 直樹						講師の実務 経験	アートディレク ターほか
授業概要	毎回、異なる本校の教員や外部講師を、約月1回のペースでゲストに呼び、その教員の職業やこれまでのキャリアについてのプレゼンテーションを受けま す。そのことで、自分自身が履修している科目が何のために必要なか、将来どのように結びついていくのかを考え、クリエイティブの学びの理解を深 めます。ゲストとする講師の方々は、クリエイティブの各方面で、専門の職能と職域を持っています。自分の進路にとって得難い「道しるべ」となるはず です。							
授業方法	講義中心の授業です。毎回、授業で取り扱うトピックスは異なります。これに合わせ授業担当講師の他に1〜3名ほどのゲスト講師をお招きします。必要に 応じてワークシートを配布し、基本的に授業内での完成をめざします。							
授業目標	思考・判断・表現	講義やワークシートを通し、考えや気づきをまとめる						○
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	ゲスト講師に質問などをし、積極的に授業へ参加する						◎
	知識・理解	各講師の思想や考え、あるいは現場でのエピソードなどを通しワーク（仕事）について理解を深める						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計（点）	
	ワークシートやその他提出物		20	—	20	20	60	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	40	—	40	
	合計（点）		20	—	60	20	100（点）	
評価の特記事 項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点〜80点、良:79点〜70点、可:69点〜60点、不可:59点〜となります。 2/3以上の出席を満たさない場合、補講への出席や追加課題の提出を求めます。							
テキスト・教 材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、および本校講師を招き授業を行う							
2回〜5回	随時、ゲスト講師を招く							
6回	総合制作のための集中講座							
7回〜8回	随時、ゲスト講師を招く							
備考								
時間外での学 修	授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。							
受講生への メッセージ	毎回、様々なジャンルのプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	色彩		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	共通	—	VD・VA共通	1年次	1(16)
必修・選択	必修	その他履修条件						
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火・2	資格対応	色彩士検定3級			
担当教員	松本 小百合					講師の実務 経験	—	
授業概要	プロのデザイナーやアーティストは、正しい理論の裏付けを持って色彩にたずさわることが必要です。この授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて行われている「ADEC 色彩士検定」の教材を用い、色が知覚されるしくみから、色彩調和に必要な配色技法までを講義と演習により学びます。							
授業方法	毎回テキストにそって講義を行い、必要な場合演習も行います。							
授業目標	思考・判断・表現	どんな演習課題も丁寧に仕上げる						○
	技能	ADEC色彩士検定3級取得						○
	関心・意欲・態度	この授業で得た知識を他の授業や個人の創作につなげようという姿勢を持ち全8回の授業に出席						◎
	知識・理解	ADEC色彩士検定3級相当の基礎理論の習得						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		10	10	—	10	30	
	制作物		—	—	20	—	20	
	受講態度		—	—	—	50	50	
	授業内テスト		10	10	20	60	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。出席と授業最終日に行うADEC色彩士検定3級模擬試験の結果が評価に大きく関わる							
テキスト・教材	『Color Master BASIC 』『色彩士検定3級』 ノートパソコン、演習に必要な画材(アクリルガッシュ等)はその都度事前にお知らせする							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、講義演習 第1章「色のなりたち」							
2回	講義演習 第2章「混色」							
3回	講義演習 第3章「三原色による混色」							
4回	講義演習 第4章「色の表示方法」							
5回	講義演習 第5章「色の知覚的効果」							
6回	講義演習 第6章「カラーマネージメントシステム」							
7回	講義演習 第7章「色の心理効果」							
8回	講義演習 第8章「色彩調和」、ADEC色彩士検定3級模擬試験							
備考								
時間外での学修	授業内で理解できなかった内容は、時間外に教科書を理解できるまで読み返していただくこと。							
受講生へのメッセージ	色を感じ伝えることはとても楽しいことです。その楽しみを知ると様々なところで活用したくなります！自分以外の人に色を正確に伝えたり、理論を踏まえたビジュアル表現ができるよう基礎知識をしっかりと学んでいきましょう。							

授業科目名	DTP理論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・VA共通	2・3年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木3	資格対応	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験			
担当教員	山崎 澄子					講師の実務 経験	○ グラフィックデ ザイン	
授業概要	IllustratorとPhotoshopの機能を調べて使いこなせるようにします。認定試験にむけて様々な模擬問題を解いていきます。							
授業方法	Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験の模擬問題。Illustrator/Photoshop応用的な使い方の提示							
授業目標	思考・判断・表現	自分で操作方法や手順を考えて問題を解く						◎
	技能	提示されたサンプルと同じものを作成する						○
	関心・意欲・態度	自分で問題を解き進める。グループワークに積極的に関わる						○
	知識・理解	グラフィックアプリケーションの特性を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
		Illustrator/Photoshopクリエイター能力認定試験に合格	30	20	—	20	70	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	20	10	30	
		合計(点)	30	20	20	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～65点、良:645点～50点、可:49点～40点、不可:39点～となります。							
テキスト・教材	『Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集』、『Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集』							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	グラフィックデザイン基礎Aの復習・PDFについて							
2回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
3回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
4回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
5回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
6回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
7回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
8回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
9回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
10回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
11回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
12回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
13回	Photoshopクリエイター能力認定試験模擬問題集							
14回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
15回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
16回	Illustratorクリエイター能力認定試験模擬問題集							
備考								
時間外での学修	授業中に終わらなかった問題は時間外に解いて手順を理解しておいて下さい。							
受講生へのメッセージ	グラフィックデザイン基礎Aで学習した内容の応用です。操作は難しくなりますが、楽しい作業でもあります。グラフィックアプリケーションのさまざまな機能を発見して楽しんでください。							

授業科目名	エディトリアルDTP		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・PDE	VD2・3年次 /PDE 1・2年次	2(32)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木4	資格対応	—			
担当教員	山崎 澄子						講師の実務 経験	<input type="radio"/> グラフィックデ ザイン
授業概要	書籍・雑誌などのページものの制作全般を学びます。 InDesignの操作方法を習得します。							
授業方法	はじめにInDesignの基本的な操作を復習します。 講師と一緒に本の企画、構成を考え、ページ割を作り、その中の一部を原稿・図版・写真から作成しレイアウトデザインして仕上げます。							
授業目標	思考・判断・表現	本の企画から原稿制作、デザイン、レイアウトまで						◎
	技能	InDesignの操作						○
	関心・意欲・態度	自発的な企画アイデア出し、デザイン案作成。スケジューリング						◎
	知識・理解	書籍・雑誌の制作工程						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物		20	10	—	10	60	
	途中の進捗チェック		—	—	20	—	10	
	自発的なアイデア出し		10	—	20	—	30	
	スケジューリング		10	—	—	—	—	
合計(点)		40	10	40	10	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	『InDesign/Illustratorで学ぶ レイアウト&ブックデザインの教科書』							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	InDesign操作の復習							
2回	InDesignでべら物練習課題							
3回	InDesignでページ物練習課題							
4回～7回	ページ物の制作							
8回	夏期授業期間の制作課題チェック							
9回～15回	ページ物の制作							
16回	授業のまとめ							
備考								
時間外での学修	ページ物の制作は、時間外に進めるのが主となります。授業時にはチェックと次の作業の確認をします。							
受講生へのメッセージ	自分で企画から考えたページ物を作りますので、普段どんなものにも興味を持っているかがポイントです。受講にあたっては、様々な分野に目をむけて、自分だったらこんな出版物を作りたい、という目標をもって取り組みましょう。							

授業科目名	WEB理論A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	VD・VA2・3年次 /PDE1・2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	—			
担当教員	小林 武						講師の実務 経験	<input type="radio"/> WEBデザイン
授業概要	<p>書籍『新人IT担当者のためのWebサイト構築&amp;運営がわかる本』を基となる情報とします。  生徒の進み具合をチェックして、秩序立った勉強ができる「チェックシート」に読んだページごとにサインしてもらい、知識を得たという確信を深めてもらいます。  エッセイ、課題などを毎回提出してもらい、学生の自発的な興味を促します。  場合により、パソコンで実際の画面を見たり、講師の制作物などで説明をします。  基本的には学生それぞれに対して必要と思われるレクチャーをそれぞれに対して行います。</p>							
授業方法	<p>基本的に、自習形式で行います。  分からない点を質問したり、気づいた点などを講師に共有する、といった形で授業を進めていきます。</p>							
授業目標	思考・判断・表現	インターネットとウェブサイトの関係性の考察						△
	技能	インターネットそのものに慣れ親しむ						△
	関心・意欲・態度	勉強への取り組み、出席状況						◎
	知識・理解	書籍に記載されている内容に対する理解						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	知識テスト	—	—	—	50	50		
	受講態度(出席等を含む)	—	—	50	—	50		
	合計(点)	—	—	70	30	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。  出席と興味重視。最後に行う知識テストは提出必須となります。</p>							
テキスト・教材	筆記用具、PC、辞書							
その他参考書	『新人IT担当者のためのWebサイト構築&運営がわかる本』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強そのものに対する理解を深めるため、理論系の勉強の方法をレクチャーします。</li> <li>・チェックシートの使い方とルールを説明します。</li> </ul>							
2～7回	<p>チェックシートに従いながら書籍を読み進めます。  毎回質問形式で出題、エッセイ(感想、考察)や課題を提出していただきます。  ※現場実習の実施期間は連携先によって変動する場合があります。</p>							
8回	まとめ。知識の確認テストをします。							
備考								
時間外での学修	書籍の読み直し、インターネットに親しむ(ネットサーフィン)、課題を出す場合もあります。							
受講生へのメッセージ	少しでもウェブに興味があり、デザイン業界に就職する学生におすすめします。							

授業科目名	WEB理論B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・PDE	VD3 3年次 /PDE1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月2	資格対応	—			
担当教員	小林 武						講師の実務 経験	<input type="radio"/> WEBデザイン
授業概要	書籍『新人IT担当のためのWebサイト構築&運営がわかる本』を基となる情報とします。 「WEB理論A」で学んだ知識を掘り下げて、さらなる理解とワークを重ねてウェブの理解を深めます。							
授業方法	参考書の熟読 → 講師によるレクチャー → 生徒の考察 → 実際の企画、作成作業 の流れで行います。 ウェブ制作のワークフローごとにブロックを分けて簡易的なウェブサイトのデザイン案を作成します。							
授業目標	思考・判断・表現	デザイン案を仕上げる能力						<input type="radio"/>
	技能	ウェブサイトのサイズ感、イラストレーターの操作						<input type="radio"/>
	関心・意欲・態度	勉強への取り組み、出席状況						<input checked="" type="radio"/>
	知識・理解	書籍に記載されている内容に対する理解						<input checked="" type="radio"/>
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		10	10	—	30	50	
	提出物		—	—	50	—	50	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	50	—	50	
合計(点)		10	20	50	20	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 提出物の完成度というよりは、期間内に作り上げる取り組み姿勢と、ウェブに対する理解を重視します。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、							
その他参考書	『新人IT担当のためのWebサイト構築&運営がわかる本』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション							
2～3回	サイトマップの作成							
4～5回	ワイヤーフレームの作成							
6～7回	トップページのデザイン案作成							
8回	まとめ							
備考								
時間外での学修	授業内では完了しきれない提出物の作成を行っていただきます。							
受講生へのメッセージ	少しでもウェブに興味があり、デザイン業界に就職する生徒におすすめします。							

授業科目名	コピーライティングA		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	VD・VA2年次/ PDE1年次	2(32)
必修・選択	VD必修 VA・PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	6月集中講座	代表曜日・時限	2・3	資格対応	—			
担当教員	本藤 佳代子・松本 直樹						講師の実務 経験	<input type="radio"/> コピーライテ ィングほか
授業概要	人の心を動かし、行動を起こしてもらうためには、「どう伝えるか」表現方法だけでなく、その根幹にある「何を伝えるか」を思考・考察することが重要です。この授業では、表現の前段階である、アイデアを生み出す効果的な情報収集と、何を伝えるかをより深く理解するための整理・分析に主眼を置いて、「言語化」するスキルを学びます。取材を念頭に演習課題を出しますので、グループでその課題に取り組んでください。取材の仕方、記事への落とし込み方など、ゲスト講師の講義もあります。							
授業方法	講義や演習を通してコピーライティングへの知識・理解を深めます。企画から始まり制作に至るまで、チームを編成し連携的に取り組み、完成までたどり着きます。							
授業目標	思考・判断・表現	情報を的確に伝え、人の心を動かす表現の根本を探る						◎
	技能	情報収集力、整理・分析力を培う						○
	関心・意欲・態度	グループ単位での活動に率先して参画し、連携する						○
	知識・理解	人を惹きつけ、伝わる文章の知識と理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物①[企画書]		20	5	—	20	50	
	制作物②[成果物]		20	5	—	20	40	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10	
合計(点)		40	10	10	40	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1日目	授業の目的と制作物の発表、グループ分け、特別講師の講義。授業の目的を明確に理解すること。							
1週目	下調べ、アイデア出し、取材を経て、中間報告として1週目の最終日に企画書を提出、グループワークへの積極的な参画。							
2週目	制作。最終日に校内掲出、講評及び最も心を動かされた制作物の投票							
備考								
時間外での学修	プロジェクト型学習は、個人またはチームごとに授業外にも行うことを想定しています。授業外に、グループでの打ち合わせや制作などで、週に5時間程度の学習を要します。							
受講生へのメッセージ	言葉を使ったコミュニケーションは仕事に限らず日々あらゆる社会活動に欠かせません。的確に伝えるために自分の考えや気持ちの「言語化」からはじめましょう。							



授業科目名	コピーライティングB		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・PDE	VD3年次/ PDE2年次	2(32)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	土1・2	資格対応	—			
担当教員	本藤 佳代子・松本 直樹						講師の実務 経験	<input type="radio"/> コピーライテ ィングほか
授業概要	「どう伝えるか」だけではなく、その根幹にある「何を伝えるか」ということまで考察し、文章として構築する力を養います。テーマに基づいた演習課題を出しますので、自由な発想でそれぞれが企画を発案し、個人でそれに取り組んでください。テーマについては授業内でお伝えします。							
授業方法	講義や演習を通してコピーライティングの知識・理解を深めます。プロジェクトの企画から始まり制作に至るまで、個人制作という形で完成までたどり着きます。							
授業目標	思考・判断・表現	情報を的確に伝え、人の心を動かす表現の根本を探る						◎
	技能	企画力、文章構築能力を身につける						○
	関心・意欲・態度	自分の関心に基づいて企画を発案し、意欲的にその企画を進める						○
	知識・理解	人を惹きつけ、伝わる文章の知識と理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物①[企画書]		20	5		20	25	
	制作物②[成果物]		20	5		20	45	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10	
合計(点)		40	10	10	40	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
	プロジェクトデザイン及びプロジェクトデザイン基礎3での各自の展開を踏まえ、コピーライティングに特化した授業とします。							
備考								
時間外での学修	プロジェクト型学習は、授業外にも行うことを想定しています。授業外に、企画や制作などで、週に5時間程度の学習を要します。							
受講生へのメッセージ	言葉を使ったコミュニケーションは仕事に限らず日々あらゆる社会活動に欠かせません。的確に伝えるために自分の考えや気持ちの「言語化」からはじめましょう。							

授業科目名	ディスプレイデザイン A・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD共通	2・3年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件	A…VD-2/B…VD-3にそれぞれ配当					
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	火1・2	資格対応	—			
担当教員	横山 美智子					講師の実務 経験	○ ディスプレイ デザイン	
授業概要	<p>情報化時代といわれる現代社会では、流通経路を的確に築きあげ、効果的な情報を与え、さらに、その時代の流れに乗ったイメージ操作と、消費者の心をとらえる販売活動が行われない限り商品は売れるものではありません。</p> <p>商品を展開する売場空間の活性化を図るため、単に「きれいに物(商品)を並べる」という事ではなく、幅広い知識と造形力・感性・時代情報が必須となります。授業では、こうしたことを踏まえた講義と演習を通して、専門の知識・技術・アイデア・デザイン・クリエイティブの総合的な力をつけた「プロデュース出来る人材」の育成を目指します。</p>							
授業方法	<p>テキストや実際の仕事の資料を参考にし、売り場づくりの基礎知識を学びます。また、ラッピング等の演出テクニック、街に出たVMDマップ(ショッピングリサーチ)や、校内の空間を自由に使い簡単なディスプレイを実施し、それにそった「演出計画書」を制作します。</p>							
授業目標	思考・判断・表現	デザイナーのプランニングや企画が知識や言葉に留まらず、実践面(現場)でも浸透し実行できるVMDスペシャリストを目指す					◎	
	技能	ディスプレイデザイン・VP(ビジュアルプレゼンテーション)の基礎技術を学ぶ					◎	
	関心・意欲・態度	流通関連分野で幅広く活躍できることを目指す					◎	
	知識・理解	VMD(ビジュアルマーチャンダイジング)の専門的な用語や基礎知識を習得する					◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	制作物①「ショッピングリサーチ」		10	—	10	20	40	
	制作物②「演出計画指示書」		10	20	10	10	50	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10	
合計(点)		20	20	30	30	100(点)		
評価の特記事項	<p>成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。</p> <p>「ショッピングリサーチ」演出計画書の作成を通して、全店統一とそれを総合的にプロデュースする力を身につけて、売り上げを伸ばし、ケーススタディーを含めて専門的な知識や技術、確認修正の手法を学び得たかどうか、又、プロを目指す人として基本的な対応をする事が出来るかどうか同時に評価していきます。</p>							
テキスト・教材	『ビジュアル版 VMD 新テキスト』、実技に伴う什器・媒体・ラッピング材等は各自(2500円程度)、必要プリントは授業にて配布。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	ディスプレイ・VP・VMD概論							
第2回	売り場の要素と基本事項							
第3回	売り場の媒体配置基準と扱い方							
第4回	売り場の作り方(導線を考えたレイアウト・ショッピングリサーチ)→提出							
第5回	ビジュアルプレゼンテーション、テクニックの基本							
第6回	演出小物のテクニック(ギフトラッピング・布・リボン等)							
第7回	空間構成・構図の分析とテクニック							
第8回	演出計画指示書のフォローと制作→提出							
備考								
時間外での学修	VMD(ディスプレイ)の意味と意義・業務内容の基本を理解した上で「商空間」がどのように成り立っているのか?お客様は何を求め来店するのか?真の「売り場」を作るという視点に立ち、いつもの街やショップを歩いてみてください。きっと今までとは違った意味で、どうしてその方法が良いのか、何故してはいけないのかが具体的に見えてくるはずです。							
受講生へのメッセージ	本科目との出会いの中で、幅広い知識・技術と研ぎ澄まされた感性を身につけて、それぞれの分野でプロとして活躍できる素晴らしい人材になっていただくことを願っています。							

授業科目名	美術学習論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・VA共通	1年次	1(16)
必修・選択	VD選択 VA必修	その他履修条件	美術学習論実習を履修するためには必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月2	資格対応	—			
担当教員	吉田 昌司・ながはり 朱実・小林 勝彦						講師の実務 経験	美術、イラストレー ション、グラフィッ クデザイン
授業概要	「デザイン」「アート」「マルチ美術」の課題を行い、表現する大切さを美術教育を解釈しながら学びとして理解していきます。幼い頃に誰もが行って来た(であろう)一次体験を「デザイン」「アート」「マルチ美術」を通してもう一度ここで自覚的に経験することで見識を深め、自分の個性の発見・開発をすすめる手がかりとなることを目指します。							
授業方法	「ながのこども美術学校」のカリキュラムから、「デザイン」「アート」「マルチメディアデザイン」の課題を制作して、最終的にレポートにまとめ提出します。							
授業目標	思考・判断・表現	与えられた課題の制作プロセス、どのような学びを得て表現する						◎
	技能	課題を制作して写真、文章でレポートにまとめる。プレゼンテーション能力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	作品制作・レポートに取り組む						◎
	知識・理解	美術学習の意義を理解する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	制作物		10	10	10	10	40	
	その他提出物		10	20	—	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	—	20	
	合計(点)		20	30	30	20	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。配布したペーパーをファイルに整理し、メモを取る、なども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	画用紙、鉛筆、練り消しゴム、カルトン、カッター、クリップ、羽ぼうきなどのデッサン用具。色彩用具。なお画用紙はその都度サポートカウンターで購入できます。テキストは必要により配布します。その他、各自必要と判断したものを用意してください。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	オリエンテーション(アート)、課題と制作に対して自分が気づいた事や考えた事をまとめ							
3・4回	オリエンテーション(デザイン)、課題・制作に対して自分が気づいた事や考えた事をまとめ							
5・6回	アート、課題・制作に対して自分が気づいた事や考えた事をまとめ							
7回	オリエンテーション(マルチ美術)、課題・制作に対して自分が気づいた事や考えた事をまとめ							
8回	レポート まとめ							
備考								
時間外での学修	普段から本を読んだり、デザイン・アート作品を、作品集、展覧会、インターネットなどで鑑賞するようにして下さい。							
受講生へのメッセージ	自分の作品に対する考えを、コンセプトとして第三者に伝えられるようにします。							

授業科目名	映像制作入門		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD共通	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	履修には、4月24日に行われる特別講座(映像ライン希望者のための導入授業)への出席が必須					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	金3・4	資格対応	—			
担当教員	中村 武志・金井 真一・大井川 茂・小口 浩美 ほか						講師の実務 経験	映像クリエイター、映像ディレクター、フォトグラファーほか
授業概要	撮影環境や被写体ごとの撮影方法を知り、カメラ等の原理や機材使用法、またデータの取り扱い方などをはじめとした撮影技術の基礎的リテラシーや、動画の仕組みや構成などを学び、映像表現の基礎的技術の習得を目指します。							
授業方法	講義・演習ベースの授業です。カメラマンや映像クリエイターなどの複数の講師をお迎えします。演習は撮影方法のレクチャーを予定しています。※本授業は不定期に開講する場合があります。予定が変更となった場合は連絡しますのでご注意ください。							
授業目標	思考・判断・表現	カメラ等の原理や機材使用法に対する知識を身につけ以後の自身の制作に活かす						○
	技能	スチルやムービーの基礎的技術を身につける						○
	関心・意欲・態度	講義、演習などの授業形態を問わず、意欲的に取り組む						◎
	知識・理解	カメラや映像の原理についての幅広い知識・理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		授業内提出物	10	10	10	20	50	
		受講態度(出席等を含む)	—	—	40	10	50	
		合計(点)	10	10	50	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	撮影機材に関しては、必要に応じ学校教材を貸し出します。							
その他参考書	必要に応じて案内します。							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
4月24日	特別講座(1年次映像ライン希望者のための導入授業)							
1・2回	オリエンテーション/スチル①:カメラの原理と仕組み							
3・4回	スチル②:写像の原理と仕組み							
5・6回	ムービー①:ムービーの原理と仕組み							
7・8回	ムービー②:映像の構想—伝える惹きつけるテクニック							
備考	上記は予定です。ゲスト講師等の都合により順序が変更する場合があります。							
時間外での学修	撮影環境は、天候や時間帯に大きく影響を受けます。場合により時間外での撮影も必要となりますのでご了承ください。							
受講生へのメッセージ	本授業で登場する撮影機材や知識は、皆さんにとって初めてのものばかりとなるでしょう。ですが、映像分野で高い専門性を発揮するためには、必要不可欠なものばかりです。興味・関心を持ち、取り組んでください。							

授業科目名	映像理論A		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD共通	2年生 1年次 3年生 1・2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	水・2	資格対応	—			
担当教員	小林 駿						講師の実務 経験	—
授業概要	身近な映像ジャンルである「映画」を題材に授業を行います。 様々な批評的観点から映画作品を読み解くことで、映像を学ぶ上で重要な理論への理解を深めます。							
授業方法	映画作品4本を題材としてピックアップし、1作品毎に「鑑賞」と「分析」の回を設けます。 「作品鑑賞」の回では、映画作品を一本鑑賞します。受講者は感想文を書き、提出します。「作品分析」の回では、「作品鑑賞」の回で観た作品に関して、講師より批評的観点から作品解説がなされます。受講者はそれを受けて、小レポートを執筆し、提出します。 最終課題は、500文字～800文字程度のレポートの提出です。							
授業目標	思考・判断・表現	抽象的な発想力、論理的な思考力を磨く						◎
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	映像分野の学びにおける視野を広げ、動機を形成する						◎
	知識・理解	「映画」の根本を裏付ける映像理論について、知識を身につけ、理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		15	—	10	10	35	
	提出物①(感想文、小レポート)		20	—	10	20	50	
	提出物②(最終課題レポート)		—	—	15	—	15	
	受講態度(出席等を含む)		35	—	35	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	オリエンテーション、作品鑑賞①							
第2回	作品分析①							
第3回	作品鑑賞②							
第4回	作品分析②、最終課題レポートの与件発表							
第5回	作品鑑賞③							
第6回	作品分析③							
第7回	作品鑑賞④							
第8回	作品分析④、授業ふりかえり							
備考								
時間外での学修	「作品鑑賞」の回で上映される作品を見逃すと、その後の授業内容の理解に差し支えます。時間外で鑑賞するなどして、補完してください。 但し、扱った作品によっては外部で手に入りづらい可能性もありますので、気をつけてください。							
受講生へのメッセージ	「映画」は簡単なようでありながら、いざ「学び」の対象として働きかけると思わぬ「難解さ」を示してきます。 じっくり腰を据えて向き合いながら、「難解さ」を読み解く「楽しさ」を感じてみましょう。							

授業科目名	映像理論B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	-	全科共通	VD2・3年次/VA2 年次/PDE1年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件	ムービーメイキング、写真表現を履修するためには必修					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	月4	資格対応	-			
担当教員	吉田 章一					講師の実務 経験	○ 映像ディレク ター	
授業概要	映像クリエイターが制作現場で必要となる基礎理論の修得を目標に、映像の様々な表現方法が何故必要とされてきたのか、それをどのように使って自分の表現とするのか、映像クリエイターとして現場で必要となる基礎理論を、映画史概要と映像制作の流れから始めて映像表現のための基礎知識や基本的な手法を学びます。							
授業方法	映像制作に必要な理論を年代別に具体例を鑑賞しつつ講義を進めます。翌週の授業の冒頭で理解度の簡単なテストを行います。中間で実際に絵コンテ制作の課題を提出、何人かに自分の絵コンテをプレゼンテーションし、講師と他生徒で評価ディスカッションを行います。							
授業目標	思考・判断・表現	映像制作の理論と映像史を学び、絵コンテを制作します						◎
	技能	映像制作の実際の技術を具体例とともに学びます						◎
	関心・意欲・態度	毎週理解度の小テストを行います						◎
	知識・理解	映像の絵コンテを作成し、映像のプリプロダクツ→プロダクツ→ポストプロダクツまでの知識を学びます						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	制作物(絵コンテ)		20	20	10	10	60	
	その他提出物(小テスト)		-	-	10	10	20	
	受講態度(出席等を含む)		-	-	10	10	20	
	合計(点)		20	20	30	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優：100点～80点、良：79点～70点、可：69点～60点、不可：59点～となります。小テストの取り組み方、課題の映像作品鑑賞姿勢、授業外での鑑賞することなども受講態度に反映します。							
テキスト・教材	講師作成の教材をPDFでアップロードし、受講期間中は見直すことも可能です。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	映画の誕生							
2回	映像史概要							
3回	映像制作の流れ・プランニング							
4回	撮影							
5回	照明1							
6回	照明2							
7回	素材制作							
8回	絵コンテ							
9回	音声							
10回	コンテ課題1							
11回	コンテ課題2							
12回	編集							
13回	特撮の技法							
14回	アニメーションの歴史							
15回	モニタージュ理論							
16回	仕上げと関連知識							
時間外での学修	授業中に取り上げた映像作品を授業外で鑑賞すること。講師作成資料を復習すること。							
受講生へのメッセージ	映像は100年以上をかけて発展してきたビジュアルと言葉と音声の総合芸術です。今までの鑑賞する側から制作する立場に視点を移して学んでいきましょう。							

授業科目名	映像表現		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・VA共通	2・3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木2・4	資格対応	—			
担当教員	土橋 利章・松本 直樹・小林 駿 ほか						講師の実務 経験	映像ディレク ターほか
授業概要	カメラワークやアニメーション、さらには映像エフェクトなど、それらを用いることで一体どんな表現が可能で、どのような効果があるのかを、ゲスト講師の制作物や作品を鑑賞したり、機材を見たりしながら感じ考えてみます。							
授業方法	講義中心の授業です。毎回、ゲスト講師をお招きして、作品や制作にまつわるお話しや、使用している機材、あるいはソフトなどを紹介していただきます。場合によって演習課題やレポートなどもあります(本授業は5～10月までの木曜を中心とした不定期な授業となります。開講に関しては、授業日の1週間前を目安に授業のお知らせをします)。							
授業目標	思考・判断・表現	映像の表現の幅を知り見識を広げ、自身の制作の動機づけとする						◎
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	演習やレポート提出、ゲスト講師への質問など積極的に授業へ参加する						◎
	知識・理解	どのような技法や機材があるか学ぶ						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	レポートや演習などの提出物	25	—	15	10	50		
	受講態度(出席等を含む)	—	—	30	20	50		
	合計(点)	25	—	45	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	オリエンテーション							
2回～7回	随時、演習やゲスト講師を招く							
8回	映像表現まとめ							
備考								
時間外での学修	レポートや演習課題のほか、授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。							
受講生へのメッセージ	毎回、映像業界におけるプロフェッショナルをお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	キャラクター概論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	全科共通	VD・VA1年次 /PDE1・2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件						
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	土1・2	資格対応	—			
担当教員	下田 ひかり						講師の実務 経験	○ 美術
授業概要	世の中にある「キャラクター」について、分類や役割を調査し、自分達で造形することで、より実践的に理解を深める。グループワークとして行う事で、社会で必要とされるコミュニケーションを通したクリエイティブを学ぶ。							
授業方法	5人程度の班に分かれたグループワークになります。1, 2回目はキャラクターについて、こちらが指示した内容をグループで調査し報告して貰います。3回目以降は同グループでオリジナルのゆるキャラを制作します。キャラクターデザインだけではなく、そのゆるキャラが必要とされる背景、SNSなどを使ったプロモーション方法、必要であれば商品パッケージデザインまで総合的に考え、具体化し、プレゼンしてもらいます。							
授業目標	思考・判断・表現	目的からキャラクターデザインを作り上げ同時に商品パッケージ、プロモーション方法を考える アイデアをイラストや図などを使って分かりやすく他人に伝えるプレゼン方法を考える					◎	
	技能	—					△	
	関心・意欲・態度	グループワークなので、一人一人がグループに積極的に関わり、役割分担をし、意欲的に取り組む					◎	
	知識・理解	自分達で能動的に調査する事で、対象への知識と理解を深める					◎	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法		20	—	20	20	60	
	制作物(グループ単位)		—	—	30	10	40	
	受講態度(出席等を含む)		20	—	50	30	100(点)	
評価の特記事項	出席率(関心・意欲)を重視しています。欠席1回ごとにレポートの提出を求めます。							
テキスト・教材	教材などはこちらでは用意しません。「自分達で調べる」事が必要になるので、パソコンやスマホ、資料など授業中に調べるためのものを自分達で用意すること。その他、ゆるキャラ制作に必要な自分達で判断したもの(描画に必要な紙や筆記用具、パソコン、デバイスなど)を準備							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	キャラクターについての概要、役割、活用について、グループごとの調査と発表。							
3～8回	グループごとにオリジナルのゆるキャラ作成。途中と最後にプレゼン発表。							
備考								
時間外での学修	時間内で満足いく制作が難しいと判断した場合は、各自時間外で集まって検討を重ね、最終的に成果物として完成させ発表すること。							
受講生へのメッセージ	1年次にはまだ馴染みのないグループワーク形式の授業です。普段何気なく接しているキャラクターについて、クリエイティブの学校だからこそ、その意義や効果的な使われ方について実践的に学べる授業としました。自分達で考え形にする事を最重要視しています。各々がクリエイティブに関わる一人だと自覚し、一つのものを上げるために積極的に動けるように考えて行動して下さい。							



授業科目名	マンガ概論		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・VA共通	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	木・3	資格対応	—			
担当教員	ながはり 朱実						講師の実務 経験	○ イラストレー ション
授業概要	マンガの手法を演習し、その成果物をディスカッションします。また自身が感じる魅力的なマンガを観察、洞察、プレゼンテーションすることで、より造詣を深めていきます。							
授業方法	講義と演習が中心の授業になります。プレゼンテーションやグループワークも行ないます。また他者の制作物を鑑賞し自分の感じたことを伝えることもおこないます。							
授業目標	思考・判断・表現	マンガを通して、絵の表現力、物語力、総合力を学ぶ						◎
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	グループワークや発表時の積極性や協調性、提出課題期限を守る						◎
	知識・理解	講義・演習を通して表現力、物語力、総合力を身につける						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	提出物		20	—	20	20	60	
	受講態度(出席等を含む)		10	—	20	10	40	
	合計(点)		30	—	40	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	テキストは必要により配布。画材などの制作に必要なツール。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	マンガの特性と表現形式の講座							
2回	グループワーク(読み手目線からマンガ考察)							
3～8回	マンガの形式を演習を交え、考え話し合う コマや吹き出しの有効な使い方 1コママンガ及びストーリーマンガの表現方法など							
備考								
時間外での学修	時間内で満足いく制作が難しい場合は、各自時間外で進めること。課題は必ず完成させて提出してください。							
受講生へのメッセージ	演習も多くありますが、うまく描くというより、コツや見え方、手法を実技で学ぶ時間です。 第三者に伝わる表現方法の手段として、マンガを考えます。							

授業科目名	アート研究		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD・VA共通	2・3年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件						
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木1	資格対応	美術検定4級			
担当教員	松本 直樹						講師の実務 経験	—
授業概要	毎回、各時代の名作といわれる美術作品の中からピックアップし、その主題や歴史的な背景、技法やコンセプトなど、基本的な鑑賞ポイントなどを一緒に確認していきます。講義で取り上げる作品は美術検定4級に基づき、さらに美術検定4級の取得をめざします。							
授業方法	講義中心の授業ですが、授業内では、必要に応じ簡単な演習をおこないます(必要な素材や道具などは前の授業内でお知らせします)。また試験に向けた小テストなどもおこなう予定です。							
授業目標	思考・判断・表現	作品を通し観察眼を鍛え、アート全般に対する批評力を身につける						○
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	参考資料のリサーチなど積極的におこなう						◎
	知識・理解	レポートや演習課題に取り組み、それぞれの作品に対する理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	レポートやその他提出物		20	—	20	20	60	
	美術検定4級取得		—	—	—	20	20	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	20	—	20	
	合計(点)		20	—	40	40	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』、その他必要により配布							
その他参考書	『この絵、誰の絵? 100の名作で西洋・日本美術入門』、『はじめて学ぶ美術の歴史 一問一答 美術検定4級練習問題』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション/美術鑑賞について							
2回	技法1(造形の種類やその製造法)							
3回	技法2(絵画、版画や印刷技術)							
4回	美術における主題1(テーマについて)							
5回	美術における主題2(テーマの表現方法)							
6回	デフォルメとキュビズム							
7回	現代美術							
8回	アート研究まとめ							
備考								
時間外での学修	参考資料なども使用し、試験に向けて各自自学を進めてください。							
受講生へのメッセージ	美術作品の読み解き方を学び、観察眼を鍛えることは「アートを鑑賞する」という枠をこえ、自分自身の制作を進める上でも重要な能力となるでしょう。							

授業科目名	コンセプチュアルアート		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・PDE	VD3年次/ PDE1・2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件						
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	—			
担当教員	松本 直樹						講師の実務 経験	—
授業概要	「コンセプチュアルアート」とは1960年代のアートにおける世界的な動向の名称です。日本では「概念芸術」や「観念芸術」と訳されたりもしています。アート作品は視覚的に捉えられるものだけではありません。本授業では、アート作品と呼ばれるものが、果たしてどのように形作られ、その表現が決定されたのか、そしてどう受容されたのか、「コンセプト」、「概念」や「観念」そして「知覚」というキーワードをもとに探っていきます。							
授業方法	講義中心の授業です。「コンセプチュアルアート」は60年代の美術動向の名称ですが、その年代に限らず、幅広く紹介していきます。レポートによる課題などがあります。							
授業目標	思考・判断・表現	作品を通し観察眼を鍛え、アート全般に対する批評力を身につける						○
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	参考資料のリサーチなど積極的をおこなう						◎
	知識・理解	概念操作や知覚の操作など、視覚だけにとどまらない作品の表現を知る						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判 断・表現	技能	関心・意欲・ 態度	知識・理解	合計(点)	
	レポートやその他提出物		20	—	20	30	70	
	受講態度(出席等を含む)		—	—	30	—	30	
	合計(点)		20	—	50	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	必要により配布							
その他参考書	末永 照和、早見 堯 他『増補新装 カラー版 20世紀の美術』、暮沢 剛巳(編)『現代美術を知るクリエイティブ・ワーズ』							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション/「概念」・「知覚」について							
2回	「観る」とは何か1							
3回	「観る」とは何か2							
4回	見えないものの世界							
5回	「空間」と「時間」、「平面」と「均衡」							
6回	あまりにも「具体的」なコンセプト							
7回	メタ技術							
8回	コンセプチュアルアートまとめ							
備考								
時間外での学修	授業において紹介した作家、作品、その他キーワードをあらためてリサーチし、思考や見識を深めてください。							
受講生へのメッセージ	受講生のみさんの興味も聞きながら、授業を進行していきます。							

授業科目名	ビジネスナレッジB-デザインコンプライアンス		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3・PDE	VD3年次 PDE1・2年次	2(32)
必修・選択	選択	その他履修条件		—				
開講期	7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限		土1・2	資格対応	—		
担当教員	和田 邦彦						講師の実務 経験	—
授業概要	知的財産の種類、その権利関係や権利の侵害等を題材にして展開していきます。 創作活動をしていく上でのコンプライアンス(法令遵守)についても学習をします。 昨今の知的財産権の侵害やグローバルな経済社会での出来事等、リアルタイムな話題にも触れていく。							
授業方法	授業は講義形式で行う、映像教材の視聴を交えながら展開していく。授業展開の中で学校外に出て調査する課題も予定している。 配布する記入ノート等に各自がまとめていく。総括として記入ノートの提出があります。							
授業目標	思考・判断・表現	取り扱う教材(事例)について熟考、判断しながらまとめる						◎
	技能	創作活動の際の法令遵守を意識できる能力を涵養する						○
	関心・意欲・態度	授業内容に関心をもち意欲的に学ぶ姿勢で臨む						◎
	知識・理解	知的財産権の種類、概要を理解し知識を蓄積する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
		記入ノートの記述内容	10	—	10	10	30	
		まとめ(提出)	—	10	10	20	40	
		受講状況(外部講師の講演を含む)	10	—	10	10	30	
		合計(点)	20	10	30	40	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となりませす。 配布する記入ノートの記述の充実度が評価に反映します。提出がないと評価できません。							
テキスト・教材	「産業財産権標準テキスト 総合編 第5版」工業所有権情報-研修館 「知的創造活動と知的財産」スライドで提示、配布資料							
その他参考書	特にありませんが、関連書籍を各自が購入し蔵書されることを望みます。							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	・オリエンテーション:知的財産権の概要、知的創造活動と知的財産 生活を豊かにする知的財産 ・特許・実用新案、意匠、商標、著作権の概要							
3・4回	・産業財産権について、特許って何? ・特許、実用新案制度							
5・6回	・デザインって何?デザインの意義 ・意匠登録制度とデザイン							
7・8回	・自分のデザインを知的財産にしよう ・商標って何?商標の歴史、役割、ブランド(商標からブランドへ)、ブランド力							
9・10回	・商標登録制度について ・ネーミングについて、商標調査(学校外で調査)							
11・12回	・著作権、著作隣接権、著作権と産業財産権の違い ・映像資料「著作権入門」視聴							
13・14回	・知的財産権とコンプライアンス ・外部講師(予定)、感想文							
15・16回	・まとめ ・ワークシートの確認完成・提出							
備考								
時間外での学修	広い意味で捉えるとコンプライアンス違反は企業活動のみで起こることだけでなく、個人が気づかず起こしてしまうこともあります。 知的財産権については、普段、利用する店舗や商品等が具体的な教材として豊富に存在しています。観察、注視することで机上の学習ではできない 商標(ブランド)、ネーミング、コピー、意匠デザイン、アイデア等々発見があります。							
受講生へのメッセージ	クリエイティブな活動をしていくうえで守らなければならないことや、あるいは生活者として守らなければならないルール(社会規範)がある。 一部の人びとによる稚拙な行動(違法行為)がマスコミに取り上げられている。そんな事象を批判的に捉えられる感性をもって行動してほしい。							

授業科目名	プロジェクトデザイン基礎1・2・3		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	VD3	1・2・3年次	1(16)
必修・選択	必須	その他履修条件	—					
開講期	7月～10月 (ゼミ期)	代表曜日・時限	水2	資格対応	—			
担当教員	本藤 佳代子						講師の実務 経験	<input type="radio"/> プランナー
授業概要	プロジェクトとは、ある目標を設定し、その目標を達成するための計画をいいます。そしてプロジェクトの目標へ至るまでには大小様々なタスク (任務) が待っています。 ひとつのプロジェクトを企画・発案し実行するという事は、そのプロジェクトが「何のために必要なか」を意義づけるマクロな視点と、「どのように遂行するか」という、より現実的なミクロな視点の2つを持ち合わせなければなりません。授業では、実践の中でこの2つの視点を養いプロジェクトを実現化するための3つの力 (判断力、決断力、そして行動力) を身につけます。							
授業方法	各自自由にプロジェクトを立ち上げます。到達目標を定め、実現のための企画・制作をします。リサーチなどのプロセスを経て、担当講師とのディスカッションなどを通しプロジェクトの完成度を高め、実現へととり着きます。							
授業目標	思考・判断・表現	具体性のある目標を設定、タスクを整理し、実現に向けたロードマップを確立する						◎
	技能	思考・発想力、実制作両面で、タスクを適切に処理する力を身につける						◎
	関心・意欲・態度	プロジェクト実現のために意欲的かつ積極的な行動を取る						◎
	知識・理解	目標達成の過程で必要な知識を蓄え、プロジェクトの持つ意義について理解を深める						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計 (点)	
	評価方法							
	制作物①[企画書]		30	—	—	—	30	
	制作物②[成果物]		—	30	—	—	30	
	制作物③[報告書]		—	—	—	30	30	
受講態度 (出席等を含む)		—	—	10	—	10		
合計 (点)		30	30	10	30	100 (点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。 制作物はそれ自体の完成度だけでなく、それに対する第3者の評価も重要とします(プロジェクトデザイン基礎では公開することを前提にすべて制作するため)。完成品は直ちに必ずポートフォリオに追加、その都度提出し、プロジェクトデザインアーカイブの作成(資料とデータ)提出							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	各自将来のビジョンを考察、授業内での目標を設定							
第2回	それに応じたプロジェクトをひとつ立ち上げ、実現する							
備考								
時間外での学修	プロジェクト型学習は授業外にも行うことを想定しています。授業外にリサーチや制作、クライアントがいれば、その打ち合わせやなどで、週に5時間程度の学習を要します。							
受講生へのメッセージ	自分でプロジェクトを立ち上げ完成までもっていくことは、非常に体力も根気もいることです。そして何より実践的に学べるはずで、自分のやりたいことを楽しみながら一緒に学びましょう。							

授業科目名	デザインエンジニアリングA・B		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	専門	—	PDE	2年次	A-2(32) B-1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期) 7月～10月(ゼミ期)	代表曜日・時限	木 1	資格対応	—			
担当教員	小林 勝彦・松本 直樹						講師の実務 経験	<input type="radio"/> アートディレク ター
授業概要	一般的に、装飾などの造形的な美しさと考えられがちな「デザイン」ですが、それだけではなく本来は「設計」という意味があります。また「エンジニアリング」には「基礎科学を応用する技術の総称」というだけではなく、広く「具体的に問題を解決する方法の体系」という意味があります。現在、前例のない状況や未知の課題に対し、解決のため手立てを探る思考法として「デザイン思考」という言葉が広く用いられていますが、まさしくクリエイターに求められているのは、既成観念に囚われない自由な発想で、課題に挑む力に他なりません。当授業では実践的かつ即応性の高いリテラシーと課題解決能力の獲得を目指します。							
授業方法	デザインエンジニアリングでは、マインドマップなどの実際のツールを用いて、思考力や発想力を鍛え、形にしていく演習を行います。また、各分野の実務経験を備えたクリエイターの方をスポット講師として迎え、現場から直接もたらされた鮮度の高い情報を紹介する講義を開講します。							
授業目標	思考・判断・表現	演習を通し、思考力・発想力を身につけ、課題を通しそれを適切に表現する力を身につける						◎
	技能	—						△
	関心・意欲・態度	各講義に、演習に対し意欲的に取り組む						○
	知識・理解	講義を通し「デザイン思考」のあり方について理解を深め、レポートによりそれを集成する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	課題①[演習問題a]		20	—	—	5	25	
	課題②[中間レポート]		—	—	—	20	20	
	課題③[演習問題b]		20	—	—	5	25	
	課題④[最終レポート]		—	—	—	20	20	
受講態度(出席等を含む)		—	—	10	—	10		
合計(点)		40	—	10	50	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。							
テキスト・教材	筆記用具、PC、その他制作に必要なもの。							
その他参考書								
<b>授業計画</b>								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション、および本校講師を招き授業を行う							
2回～15回	随時、ゲスト講師を招く							
16回	まとめ							
備考								
時間外での学修	授業において取り上げたトピックスについて、各自、考えを深めてください。							
受講生へのメッセージ	様々なジャンルのプロフェッショナルもお招きします。楽しみにしててください。							

授業科目名	キャリアデザインA			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	VD・VA共通	1年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件		—				
開講期	通年	代表曜日・時限	月・1	資格対応	日本語検定(3級)			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインAは自身のキャリアについて考え、自己探求を目的とします。							
授業方法	個人、グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	思考・判断・表現	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能	—					△	
	関心・意欲・態度	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	知識・理解	正しい日本語を理解し、日本語検定3級認定を目指す。授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点			思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
	評価方法							
	提出物			10	—	5	5	20
	資格試験			—	—	—	20	20
	グループワーク			10	—	15	5	30
	受講態度(出席等を含む)			10	—	20	—	30
合計(点)			30	—	40	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となり。日本語検定の受験、第20回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	未来ノート・日本語検定公式テキスト「日本語」中級・キャリアファイル(各自、サポートカウンターにて第1回の授業前に購入)・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【仕事の根っこ】キャリアデザインAの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[発信力・傾聴力]							
第2回	【ジョハリの窓】今までの出来事から自分自身でモチベーションを維持する方法を探る。自他から見た自分を知る。[主体性・働きかけ力・発信力・傾聴力・柔軟性]							
第3回	【自分を変える。世界が変わる。】自己探求から自身の現状を受け止め、これからの学びの目的を明確にする。[課題発見力・計画力・発信力・傾聴力・柔軟性]							
第4回	【着こなし講座】スーツの着こなし方を学ぶ。[状況把握力・規律性]							
第5回	【私の大切なもの探し】自分の価値観について、認識し表現する。今後それをどう活かしていけばよいのかを考える。[主体性・課題発見力・発信力・傾聴力・柔軟性]							
第6回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第7回	【ACTIVE LISTENNING & POWERFUL QUESTION】積極的傾聴とはどんな姿勢かを考え、学ぶ。また効果的質問の仕方を学ぶ。 [主体性・働きかけ力・課題発見力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力]							
第8回	【私ってどんな人?】自己理解を深めることによって、自分自身を「他者に伝える」ことを意識して、「自己イメージ」を言語化・明確化する。[課題発見力・創造力・発信力]							
第9回	【日本語検定対策①】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
第10回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第11～13回	【日本語検定対策②③④】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]							
11月9日(土)	日本語検定3級受験日							
第14回	【Free Being Me】容姿に対する自分の認識を確認し、ボディコンフィデンスの問題を明確にし、より良い世界にするための考え方を学ぶ。 [主体性・働きかけ力・課題発見力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力]							
第15回	【自己紹介文】書き言葉と読み言葉の違いを認識し、相手に伝わる自己PRをまとめる。[課題発見力・発信力]							
第16回・第17回	【就職準備セミナー】就職活動について知り、準備をする。[計画力・規律性]							
第18回	【租税教室】税の意義や役割を正しく理解する。[状況把握力・規律性]							
第19回	【クリエイターインタビュー】職業理解を目的として会社を訪問し、自身の学びが仕事の現場でどのようにつながっているかを感じる。[主体性・課題発見力・傾聴力・状況把握力]							
第20回	【ふりかえり】キャリアデザインAをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 クリエイターインタビューは会社訪問を予定しています。会社までの交通費は自己負担です。							
時間外での学修	日本語検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	自分自身のキャリアをデザインするには自己を探究し、自己理解を深めることが第一歩です。自己を理解し、自分自身を人に伝えられる力をつけましょう。キャリアデザインAの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	キャリアデザインB			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	VD・VA共通	2年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件		-				
開講期	通年	代表曜日・時限	月・2	資格対応	ビジネス能力検定(3級)			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	-
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインBはキャリアデザインAに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに社会性を養うことを目的とします。また、授業を通して「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である「社会人基礎力」を養います。							
授業方法	個人、グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	思考・判断・表現	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を磨く 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ					◎	
	技能	-					△	
	関心・意欲・態度	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す					◎	
	知識・理解	社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する					○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	提出物		10	-	5	5	20	
	資格試験		-	-	-	20	20	
	グループワーク		10	-	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	-	20	-	30	
	合計(点)		30	-	40	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 ビジネス能力検定の受験、第20回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 ※キャリアデザインAにて日本語検定を受験していない学生は、上記成績評価の要件に11月9日(土)日本語検定の受験も含まれます。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	未来ノート・ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・社会人基礎力 職業適正診断「キャリアステップ」 キャリアファイル(キャリアデザインAで使用したものを引き続き使用)・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【コンセンサス】キャリアデザインBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[発信力・傾聴力]							
第2回	【就職活動対策-履歴書-】履歴書の書き方の基礎を学ぶ。[課題発見力・計画力・発信力・傾聴力・状況把握力・規律性]							
第3回	【就職活動対策-面接-】面接において意識すべきことを知り、入退室を実践する。[課題発見力・計画力・発信力・傾聴力・状況把握力・規律性]							
第4回	【社会人基礎力・職業適正診断「キャリアステップ」】社会人基礎力と職業適性をキャリアステップにより診断し、自己理解を深める。							
第5回	【着こなし講座】スーツの着こなし方を学ぶ。[状況把握力・規律性]							
第6回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第7～9回	【ビジネス能力検定対策①②③】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。[課題発見力・規律性]							
7月7日(日)	ビジネス能力検定3級受験日							
第10回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第11回	【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。[規律性]							
第12回	【情報活用】それぞれの媒体から得られる情報の特徴を見極め、活用方法を理解する。広く世の中の動きを理解し、情報に対する自身の考えを持つ。[課題発見力・発信力・傾聴力]							
第13回	【Voices Against Violence】暴力の認識を深め、すべての人の人権を尊重する姿勢と、男女間の平等を推進する考え方を身につける。 [主体性・課題発見力・発信力・傾聴力・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第14回	【年金セミナー】年金制度を正しく理解する。[規律性]							
第15回	【新社会人ワーキングセミナー】労働基準法を中心とした労働関係の基礎知識や、新社会人の心構え等を学ぶ。[規律性]							
第16回・第17回	【グループワーク】グループでのディスカッションしながら学ぶ。							
第18回	【自己と向き合う】自分自身の状態を受け止め、気持ちと体をコントロールする方法を学ぶ。[ストレスコントロール力]							
第19回	【クエイターインタビュー】職業理解を目的として会社を訪問し、自身の学びが仕事の現場でどのようにつながっているかを感じる。[主体性・課題発見力・傾聴力・状況把握力]							
第20回	【ふりかえり】キャリアデザインBをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 クエイターインタビューは会社訪問や会社説明会を予定しています。会場までの交通費は自己負担です。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	卒業後の自分自身を意識し、社会で必要とされる知識を身につけ、自身の特徴を社会で活かせるように準備をしていきましょう。キャリアデザインBの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							



授業科目名	キャリアデザインC			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	PDE	1年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件	-					
開講期	通年	代表曜日・時限	水・1	資格対応	ビジネス能力検定(2級)			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	-
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインCはこれまでの体験や経験からキャリアについて考え、自己表現する力をつけることを目的とします。 また、授業を通して「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である「社会人基礎力」を養います。							
授業方法	個人の特徴や課題から自身を磨くプロジェクトを計画し、実行します。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	思考・判断・表現	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ						◎
	技能	-						△
	関心・意欲・態度	自らの特徴と課題を見出し、どのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎
	知識・理解	社会人として必要とされる仕事に対する思考・行動を学び、ビジネス能力検定2級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する。現場を見て、現場から学び、正しい知識と判断する力を持つ						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	提出物		10	-	5	5	20	
	資格試験		-	-	-	20	20	
	他者との協同		10	-	15	5	30	
	受講態度(出席等を含む)		10	-	20	-	30	
	合計(点)		30	-	40	30	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となり。ビジネス能力検定の受験、第20回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト・キャリアデザインファイル(各自、サポートカウンターにて第1回の授業前に購入)・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【プロジェクト】キャリアデザインCの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[主体性・課題発見力・計画力・傾聴力・状況把握力]							
第2回-第3回	【計画を立てよう】自身の特徴と課題からキャリアに関するプロジェクトを立ち上げ、計画をする。[主体性・課題発見力・計画力・傾聴力・状況把握力]							
第4回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第5回-第8回	【ビジネス能力検定対策】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。[課題発見力・規律性]							
7月7日(日)	ビジネス能力検定2級受験日							
第9回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]							
第10回-第18回	【行動しよう】プロジェクトを実施する。[主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール]							
第19回	【評価】プロジェクトを評価する。[状況把握力]							
第20回	【ふりかえり】キャリアデザインCをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。学校外で行うこともあります。 プロジェクトの内容に応じて必要となる費用は自己負担です。 キャリアデザインABDと合同で授業を行うことがあります。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	プロジェクトの企画・実施を通して社会で活かせる自分を発見しましょう。キャリアデザインCの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	キャリアデザインD				科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
					講義・演習	○	PDE	2年次	2(32)
必修・選択	必修	その他履修条件		—					
開講期	通年	代表曜日・時限		水・1	資格対応	—			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳							講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリアデザインDはこれまでの体験や経験から社会で活かせる自分を発見し、自身の力を役立てることを目的とします。 また、授業を通して「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である"社会人基礎力"を養います。								
授業方法	個人の特徴や課題から自身を磨くプロジェクトを計画し、実行します。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。								
授業目標	思考・判断・表現	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ						◎	
	技能	-						△	
	関心・意欲・態度	自らの特徴と課題を見出し、どのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎	
	知識・理解	授業内での指示や連絡を正確に理解する。現場を見て、現場から学び、正しい知識と判断する力を持つ						○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	評価方法								
	提出物		10	—	10	10	30		
	他者との協同		10	—	15	5	30		
	受講態度(出席等を含む)		20	—	20	—	40		
合計(点)		40	—	45	15	100(点)			
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～と なります。 第20回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。								
テキスト・教材	キャリアデザインファイル(キャリアデザインCで使用したものを引き続き使用)・その他必要に応じて配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
第1回	【プロジェクト】キャリアデザインDの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[主体性・課題発見力・計画力・傾聴力・状況把握力]								
第2回-第4回	【計画を立てよう】自身の特徴と課題からキャリアに関するプロジェクトを立ち上げ、計画をする。[主体性・課題発見力・計画力・傾聴力・状況把握力]								
第5回	【TEAM BUILDING①】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]								
第6回	【TEAM BUILDING②】思いを一つにして一つのゴールに向かって進む組織づくりを体験から学び、実践する。 [主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力]								
第7回-第18回	【行動しよう】プロジェクトを実施する。[主体性・働きかけ力・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール]								
第19回	【評価】プロジェクトを評価する。[状況把握力]								
第20回	【ふりかえり】キャリアデザインDをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]								
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。学校外で行うこともあります。 プロジェクトの内容に応じて必要となる費用は自己負担です。 キャリアデザインABCと合同で授業を行うことがあります。								
時間外での学修	プロジェクトを授業外にも進める。								
受講生へのメッセージ	プロジェクトの企画・実施を通して社会で活かせる自分を発見し、役立てましょう。キャリアデザインDの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。								

授業科目名	キャリア講座A				科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
					講義・演習	○	VA・VD共通	1年次	1(16)
必修・選択	条件付き選択必修	その他履修条件	【履修上の注意】キャリア講座Aは、キャリアデザインAを履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。						
開講期	通年	代表曜日・時限	月・1	資格対応	日本語検定(3級)				
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳							講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Aは自身のキャリアについて考え、自己探求を目的とします。 また、授業を通して「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である「社会人基礎力」を養います。								
授業方法	個人、少人数グループで行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。								
授業目標	思考・判断・表現	自分自身の考えを相手に伝える 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ							◎
	技能	-							△
	関心・意欲・態度	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す							◎
	知識・理解	正しい日本語を理解し、日本語検定3級認定を目指す。授業内での指示や連絡を正確に理解する							○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	評価方法								
	提出物		10	-	5	5	20		
	資格試験		-	-	-	20	20		
	グループワーク		10	-	15	5	30		
	受講態度(出席等を含む)		10	-	20	-	30		
合計(点)		30	-	40	30	100(点)			
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 日本語検定の受験、第10回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。								
テキスト・教材	未来ノート・日本語検定公式テキスト「日本語」中級・キャリアファイル(各自、サポートカウンターにて第1回の授業前に購入)・その他必要に応じて配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
第1回	【仕事の根っこ】キャリア講座Aの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。[発信力・傾聴力]								
第2回	【ジョハリの窓】今までの出来事から自分自身でモチベーションを維持する方法を探る。自他から見た自分を知る。[主体性・働きかけ力・発信力・傾聴力・柔軟性]								
第3回	【自分を変える。世界が変わる。】自己探求から自身の現状を受け止め、これからの学びの目的を明確にする。[課題発見力・計画力・発信力・傾聴力・柔軟性]								
第4回	【私の大切なもの探し】自分の価値観について、認識し表現する。今後それをどう活かしていけばよいのかを考える。[主体性・課題発見力・発信力・傾聴力・柔軟性]								
第5回	【私ってどんな人?】自己理解を深めることによって、自分自身を「他者に伝える」ことを意識して、「自己イメージ」を言語化・明確化する。[課題発見力・創造力・発信力]								
第6回	【日本語検定対策①】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]								
第7回	【日本語検定対策②】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]								
第8回	【日本語検定対策③】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]								
第9回	【日本語検定対策④】敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字の6分野を学び、日本語の総合的な能力を高める。[発信力・規律性]								
11月9日(土)	日本語検定3級受験日								
第10回	【ふりかえり】キャリア講座Aをふりかえり、自身の変化に気付く。[課題発見力・状況把握力]								
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。								
時間外での学修	日本語検定に向けて各自学びを進める。								
受講生へのメッセージ	自分自身のキャリアをデザインするには自己を探究し、自己理解を深めることが第一歩です。自己を理解し、自分自身を人に伝えられるようになりましょう。キャリア講座Aの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。								

授業科目名	キャリア講座B			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	VA・VD共通	2年次	1(16)
必修・選択	条件付き選択必修	その他履修条件	【履修上の注意】キャリア講座Bは、キャリアデザインBを履修する過程で困難が生じた際、担当講師等との面談を経て、履修することができます。					
開講期	通年	代表曜日・時限	月・2	資格対応	ビジネス能力検定(3級)			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	—
授業概要	キャリアデザインとは、自分自身の職業人生について、自らが主体となって構想(=デザイン)し、実現していくことを指します。キャリア講座Bはキャリア講座Aに引き続き自身のキャリアについて考え、自己探求をし、さらに社会性を養うことを目的とします。 また、授業を通して「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である「社会人基礎力」を養います。							
授業方法	個人、少人数グループ、全体で行うワークショップ(体験型学習)を中心に学びます。講義だけでなく、グループの相互作用の中で学びあい創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルです。 専門的な外部講師による授業や、企業を訪問する授業も行います。							
授業目標	思考・判断・表現	自分自身の考えを相手に伝えるための表現方法を学ぶ 他者と意見交換することで多様な考えを受け入れ、広い視野を持つ						◎
	技能	-						△
	関心・意欲・態度	自ら積極的に関わり、目の前の事柄にどのように取り組めるか考え、行動に移す						◎
	知識・理解	社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学び、ビジネス能力検定3級合格を目指す 授業内での指示や連絡を正確に理解する						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	提出物	10	—	5	5	20		
	資格試験	—	—	—	20	20		
	グループワーク	10	—	15	5	30		
	受講態度(出席等を含む)	10	—	20	—	30		
	合計(点)	30	—	40	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となり。ビジネス能力検定の受験、第10回の自己評価提出、および2/3以上の出席をもって成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 ※キャリア講座Aにて日本語検定を受験していない学生は、上記成績評価の要件に11月9日(土)日本語検定の受験も含まれます。 授業を通して学生一人ひとりがどれだけ変化できたかを重視し、評価します。							
テキスト・教材	未来ノート・ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・社会人基礎力 職業適正診断「キャリアステップ」 キャリアファイル(キャリア講座Aで使用したものを引き続き使用)・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【コンセンサス】キャリアデザインBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。【発信力・傾聴力】							
第2回	【社会人基礎力・職業適正診断「キャリアステップ」】社会人基礎力と職業適性をキャリアステップにより診断し、自己理解を深める。							
第3回	【着こなし講座】スーツの着こなし方を学ぶ。【状況把握力・規律性】							
第4回	【ビジネス能力検定対策①】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。【課題発見力・規律性】							
第5回	【ビジネス能力検定対策②】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。【課題発見力・規律性】							
第6回	【ビジネス能力検定対策③】社会人として必要とされる仕事の基礎・基本を学ぶ。【課題発見力・規律性】							
7月7日(日)	ビジネス能力検定3級受験日							
第7回	【経済と金融】金銭・経済・投資などのお金に関連する知識をつけ、向き合い方を学ぶ。【規律性】							
第8回	【情報活用】それぞれの媒体から得られる情報の特徴を見極め、活用方法を理解する。広く世の中の動きを理解し、情報に対する自身の考えを持つ。【課題発見力・発信力・傾聴力】							
第9回	【新社会人ワーキングセミナー】労働基準法を中心とした労働関係の基礎知識や、新社会人の心構え等を学ぶ。【規律性】							
第10回	【ふりかえり】キャリア講座Bをふりかえり、自身の変化に気付く。【課題発見力・状況把握力】							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。							
時間外での学修	ビジネス能力検定に向けて各自学びを進める。							
受講生へのメッセージ	卒業後の自分自身を意識し、社会で必要とされる知識を身につけていきましょう。キャリア講座Bの授業を通して、学生一人ひとりが変化することを期待します。							

授業科目名	インターンシップA				科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
					講義・演習	○	VD・VA共通	1年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件		—					
開講期	7月～8月(夏季授業期間)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—				
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳							講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。								
授業方法	夏期授業期間を中心に、県内の各企業で数名ずつインターンシップ(1日から5日程度)を実施します。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。								
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎	
	技能	-						△	
	関心・意欲・態度	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎	
	知識・理解	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○	
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。							
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)		
	評価方法								
	その他提出物		10	—	10	10	30		
	他者との協働		10	—	10	10	30		
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40		
合計(点)		35	—	35	30	100(点)			
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。								
テキスト・教材	インターンシップノート・その他必要に応じて配布								
その他参考書									
授業計画									
実施回・期間	授業内容・目標								
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップAの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。								
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップAの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。インターンシップ先企業公開。希望調査の実施。								
6月下旬	【インターンシップ先決定】希望調査をもとにインターンシップ先を決定します。								
第3回	【マナー講座】インターンシップを前に基本的なマナーを学びます。								
第4回	【企業別事前オリエンテーション①】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。								
第5回	【企業別事前オリエンテーション②】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。								
夏期授業期間	【インターンシップ】								
第6回	【企業別ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。								
第7回	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを全体で共有します。								
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。 【履修上の注意】インターンシップAに参加できる学生は約20名です。第2回の希望調査と日頃の学修態度等も含めて選抜します。 どの企業でインターンシップを受けるかではなく、その場で自分にながでできるかを見出すための授業です。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。								
時間外での学修	インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 Illustrator,Photoshopを復習する。								
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深めましょう。								

授業科目名	インターンシップB			科目種	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
				講義・演習	○	VD・VA共通	2年次	1(16)
必修・選択	選択	その他履修条件		—				
開講期	7月～8月(夏季授業時間)	代表曜日・時限	※1	資格対応	—			
担当教員	塚田 佳子・小林 駿・大栗 絵梨佳						講師の実務 経験	—
授業概要	インターンシップとは学生が就業前に企業などで「就業体験」をすることを指します。 現場で働く方の姿から、仕事をする上で必要なスキルや姿勢を学び、その場で活かせる自身の強みをインターンシップ期間中に見つけます。							
授業方法	夏期授業期間を中心に、県内の各企業で数名ずつインターンシップ(1日から5日程度)を実施します。事前のオリエンテーションや準備からはじまり、インターンシップに臨んだ後はふりかえりを行います。							
授業目標	思考・判断・表現	報告・連絡・相談をこまめに行い、自己の判断だけでなく、組織の一員としての意識を持つ						◎
	技能	-						△
	関心・意欲・態度	自ら主体的に関わり、気付き、目の前の事柄にどのように取り組めるかを考え、行動に移す						◎
	知識・理解	社会で求められる知識を認識する 事前準備や現場で出された指示を理解できる						○
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	評価方法							
	提出物		10	—	10	10	30	
	他者との協同		10	—	10	10	30	
	受講態度(出席等を含む)		15	—	15	10	40	
合計(点)		35	—	35	30	100(点)		
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100～80、良:79～70、可:69～60、不可:59～となります。 全ての日程に出席をもって、成績を評価します。遅刻および早退は出席とみなしません。 企業の方からいただく評価と、授業での姿勢を重視し、評価します。							
テキスト・教材	インターンシップノート・その他必要に応じて配布							
その他参考書								
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
第1回	【インターンシップオリエンテーション①】インターンシップBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。							
第2回	【インターンシップオリエンテーション②】インターンシップBの目的・目標・授業の内容を理解し、ゴールを見据える。インターンシップ先企業公開。希望調査の実施。							
6月下旬	【インターンシップ先決定】希望調査をもとにインターンシップ先を決定します。							
第3回	【マナー講座】インターンシップを前に基本的なマナーを学びます。							
第4回	【企業別事前オリエンテーション①】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。							
第5回	【企業別事前オリエンテーション②】インターンシップ先企業別にオリエンテーションを行います。							
夏期授業期間	【インターンシップ】							
第6回	【企業別ふりかえり】インターンシップ先企業別にふりかえりを行います。							
第7回	【インターンシップ報告会】インターンシップでの体験とふりかえりを全体で共有します。							
備考	授業の実施時期・曜日または時間は変更になることがあります。 会社までの交通費は自己負担です。 【履修上の注意】インターンシップBに参加できる学生は約20名です。第2回の希望調査と日頃の学修態度等も含めて選抜します。 どの企業でインターンシップを受けるかではなく、その場で自分になにができるかを見出すための授業です。 ※1 代表曜日・時限は、インターンシップ先決定後に決まります。							
時間外での学修	インターンシップ先へ当日の交通機関を利用した下見をする。 Illustrator,Photoshopを復習する。							
受講生へのメッセージ	現場を体験できる貴重な機会です。現場で学び、「働く」ことについて理解を深め、現場で活かせる自分の特徴を見つけましょう。							

授業科目名	マーケティング		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	一般	—	全科共通	PDE 1・2年次	1(16)
必修・選択	VD必修 VA・PDE選択	その他履修条件	—					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	月3	資格対応	—			
担当教員	和田 邦彦						講師の実務 経験	—
授業概要	「マーケティング」はビジネスだけのものではなく、さまざま分野でも応用されています。「マーケティング」を知ることで創作のヒントを得て活用できること、『SWOT分析』などのフレームワークを利用して「自分たちを取りまく課題や問題」を解決する方法を学びます。							
授業方法	「マーケティング」の基本的なものを取り上げ、映像資料なども紹介しながらの講義を中心とした授業展開をしていきます。課題について学生の相互の発表も計画しています。配布するワークシートを記入、完成させていくようになります。							
授業目標	思考・判断・表現	「マーケティング」の手法を創作活動をはじめさまざまな場面で活かせることを実感する						◎
	技能	社会の変化や行動変化に新しい視点を手に入れ、創作に活かす能力を育成する						○
	関心・意欲・態度	マーケティングに興味・関心を持ち意欲的に自学・活用する意欲をもてる						◎
	知識・理解	「マーケティング」の概念を理解し知識として蓄積する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達指標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の方法		評価の観点	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)
	ワークシートの記入			—	—	20	10	30
	まとめ(提出)			10	10	10	20	50
	受講状況(出席等を含む)			10	—	10	—	20
	合計(点)			20	10	40	30	100(点)
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～となります。配布するワークシートに記入してをファイリングして整理・自己管理する。まとめの際に提出を求めます。成績評価に反映します。							
テキスト・教材	東京法令出版 教科書『新訂版 マーケティング』							
その他参考書	配布資料他							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1回	オリエンテーション:「マーケティング」とは							
2回	「マーケティング」の必要性 プロセス 4P							
3回	マーケティングリサーチ 問題発見 調査仮説							
4回	SWOT分析:4つ視点からの分析							
5回	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング							
6回	SWOT分析で各自の「強み」「弱み」「脅威」「機会」を探る							
7回	マーケティングと知的財産権							
8回	まとめ 提出物の確認							
備考								
時間外での学修	現在は「マーケティング」が話題になっています。例えば商品開発、話題の商品の紹介、テレビショッピング、CM等に、また、店舗における商品陳列、POP等にもマーケティングの手法が活用されます。日常の消費行動の際に「マーケティング?」という視点で観察することでリアルタイムの知識を学修することができます。							
受講生へのメッセージ	マーケティングの概念・手法を学ぶことで、創作活動における発想の一助となると思います。世の中を見渡すことが大切です。(上記の内容も含む)							

授業科目名	ビジネスナレッジA-ビジネスリテラシー		科目種	区分	企業等連携	設置学科	配当年次	単位 (単位時間)
			講義・演習	一般	-	VD共通・PDE	VD2・3年次/ PDE1・2年次	2(32)
必修・選択	VD必修 PDE選択	その他履修条件	-					
開講期	4月～6月(基礎履修期)	代表曜日・時限	火1・2	資格対応	-			
担当教員	和田 邦彦						講師の実務 経験	-
授業概要	将来、ビジネスパーソンとしてビジネス活動をしていく際に必要とされる知識(ナレッジ)・技術を修得する。「ビジネスとは何か」という視点からビジネスのイメージを持てるようにする。経済社会の中でおこなわれている様々な企業活動についても学びます。ビジネスパーソンとして活躍されている方を講師として招聘してビジネスシーンや企業の現状を聴講できる機会をつくる。							
授業方法	授業は講義形式で行うが、ビジネスについての映像教材の視聴を交えながら展開していく。配布するワークシート等にまとめていく。2時間の授業を前半後半に分け、前半は講義、後半は映像資料や講演を計画している。							
授業目標	思考・判断・表現	「ビジネスとは何か」という視点から事例について考え判断してまとめる						◎
	技能	ビジネスに関わる知識等を得ることでアグレッシブに仕事をしていく自信・情熱を育成する						○
	関心・意欲・態度	「ビジネスとは何か」という興味・関心を持ち、主体的に観察や学ぶ意欲を醸成する						◎
	知識・理解	ビジネスパーソンとしてビジネス活動をしていく際に必要とされる知識(ナレッジ)・技術を修得する						◎
	備考	◎・○・△の記号は、到達目標・単位認定との結びつきの強さを示しています。						
観点別評価	評価の観点		思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	知識・理解	合計(点)	
	ワークシートの記入		10	-	10	10	30	
	まとめ(提出)		-	10	10	20	40	
	受講状況(外部講師の講演を含む)		10	-	10	10	30	
	合計(点)		20	10	30	40	100(点)	
評価の特記事項	成績通知書・学業成績証明書における四段階評価は、優:100点～80点、良:79点～70点、可:69点～60点、不可:59点～と なります。配布するワークシートに記入、ファイリングして整理・自己管理する。まとめの際に提出を求めます。成績評価に反映します。							
テキスト・教材	文真堂『ビジネス・アイ』							
その他参考書	配布資料他							
授業計画								
実施回・期間	授業内容・目標							
1・2回	・オリエンテーション:ビジネスとは何か:ビジネスのイメージ ・「ビジネスとは」映像資料							
3・4回	・ビジネスの中心的存在:企業 ・ビジネスの担当者①							
5・6回	・変化するビジネス活動 ・外部講師講演(予定)							
7・8回	・ビジネスの進化と起業 ・ビジネスの担当者②							
9・10回	・産業財産権(商標権・意匠権・特許権・実用新案権)についての概要。 ・ビジネスにおけるコンプライアンス(法令遵守)							
11・12回	・ビジネス文書の書き方&マナー ・ビジネス文書の作成							
13・14回	・ビジネスの成功とイノベーション ・外部講師講演(予定)							
15・16回	・まとめ ・提出物の確認							
備考	※外部講師の都合等から各回の授業内容が移動・変更になることもある							
時間外での学修	ビジネス活動の一員として将来就業している自分をイメージして、世の中の動きや変化を観察しようという気持ちを持つことが大切です。例えば街を歩く時もテレビを見るときも「ビジネス」を意識することで相乗的に科目の理解・知識につながります。日常生活も学修の場所です。							
受講生へのメッセージ	何ごとにも問題意識(疑問、関心、興味、仮説)を持つことが大切なことと思います。「〇〇はこういうことなのかもしれない?」という仮説をたてて、ビジネス活動を観察し探求しながら生活して欲しい。							